

令和5年度 文部科学省ユネスコ活動費補助金 SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業

# ESDフォーラム ミュージアムジャック

テーマ [社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発]



## 報告書

2024年1月20日（土）9時～16時  
タカミヤ環境ミュージアム

主催／ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム、静岡大学教育学部

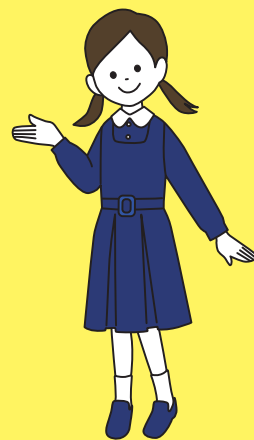
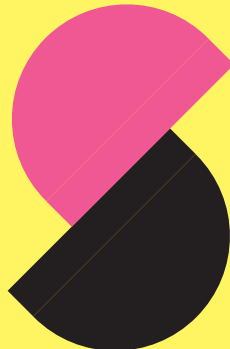
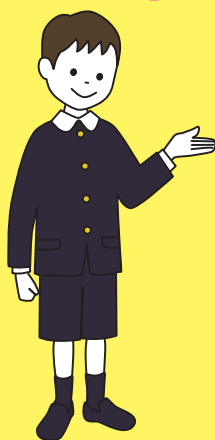
# ESDフォーラム ミュージアムジャック

テーマ [社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発]

ミュージアムジャック ▶ 明治学園小学校の4年生・93名が、タカミヤ環境ミュージアムのスタッフとして来館者をガイディングする職場体験カリキュラム。

日時 2024年1月20日(土) 9時~16時

場所 タカミヤ環境ミュージアム (北九州市八幡東区東田2丁目2-6)



「ミュージアムジャック」の最大の特徴は、

遊び心をくすぐり、子どもたちを探究活動に巻き込んでいく「リアルごっこ遊び」にあります。

ガイドやスタッフといった職場体験を通して、

子どもたちが身近な環境の成り立ちや私たちが直面するグローバルな現状を学び、  
共感・連帯・行動に関する資質や能力を身につけていくことを期待しています。

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを中心に展開される

「社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発」の初年度は、  
フォーラム参加者とともに「ミュージアムジャック」試案をブラッシュアップしていきたいと考えています。

## ESDフォーラム参加申込

プログラムの詳細は裏面をご覧ください▶

■定員 / 50名・参加費無料 ※定員になり次第締め切り

■申込受付期間 / 2023.11月20日~2024.1月10日

Youtubeオンライン配信も行います

※ご視聴時は、Youtubeの利用及びインターネット環境が必要です。

下記アドレス・QRコードから申込サイトでエントリー

<https://forms.gle/avxJU8Hd65KVsQsJ9>



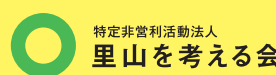
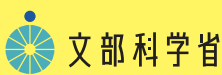
下記アドレス・QRコードからエントリー

<https://forms.gle/XJp6kWVviUSBaPeVt8>



[お問い合わせ] タカミヤ環境ミュージアム TEL.093-663-6751 (9:00~18:00・月曜休館)  
田宮 緑 (静岡大学) [tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp](mailto:tamiya.yukari@shizuoka.ac.jp)

- 主催 / ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム、静岡大学教育学部
- 協力 / 明治学園小学校、タカミヤ環境ミュージアム、NPO法人里山を考える会
- 後援 / ユネスコ・アジア文化センター、全国ESD活動支援センター、北九州ESD協議会、西日本新聞社、北九州市教育委員会



子どもたちがタカミヤ環境ミュージアムのスタッフとして、  
来館者へワクワク楽しいガイディングを行います!!



# 明治学園小学校 ミュージアム ジャック!!



2024年1月19日(金) ※ESDフォーラム前日  
①10:00~12:00▶4年1組 ②12:30~14:30▶4年2組  
2024年1月20日(土) ※ESDフォーラム当日  
9:00~11:00▶4年3組

タカミヤ  
環境ミュージアム  
入館料無料

## ESDフォーラム ミュージアムジャック

13:30-13:40 …… 開会 挨拶 熊倉 啓之 静岡大学教育学部長  
事業概要 田宮 縁 静岡大学教授

13:40-14:10 …… 基調講演「生涯学習社会における社会教育と学校教育の連携・融合」  
渋江 かさね 静岡大学准教授

14:10-14:15 …… ミュージアムジャックの概要 関 宣昭 NPO法人 里山を考える会 代表

14:15-14:20 …… ミュージアムジャックビデオ上映

14:20-14:30 …… 実践報告 明治学園小学校

14:30-14:45 …… カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック(試案)

休憩

14:55-15:55 …… ラウンドテーブル



ゲスト  
宮川 秀俊  
愛知教育大学名誉教授



ゲスト  
進藤 由美  
ユネスコ・アジア文化センター  
顧問



ゲスト  
永田 忠道  
広島大学准教授



ファシリテーター  
田宮 縁  
静岡大学教授

15:55-16:00 …… 閉会挨拶 松岡 俊和 タカミヤ環境ミュージアム 館長

※プログラム及びスケジュールは、予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

## Contents

- 01 開会 挨拶文 熊倉啓之  
概要説明スライド
- 02 基調講演「生涯学習社会における社会教育と学校教育の連携・融合」レジュメ
- 03 ミュージックジャックの概要スライド
- 04 実践報告スライド
- 05 カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック（試案）スライド
- 06 ラウンドテーブル アブストラクト 01-06
- 07 ラウンドテーブル 記録 07-29



ESDフォーラム ミュージアムジャケット

# 開会挨拶

静岡大学教育学部長

熊倉 啓之

## ESD フォーラムミュージアムジャック挨拶

皆様、こんにちは。静岡大学教育学部長の熊倉と申します。

本日は、お忙しい中を、多くの方に「ESD フォーラムミュージアムジャック」にご参加いただき、誠にありがとうございます。とりわけ、タカミヤ環境ミュージアム館長・松岡敏和様、NPO 法人里山を考える会代表・関宣昭様、そして明治学園小学校の関係の皆様には、本事業の推進に多大なご協力をいただくとともに、特に今回「ミュージアムジャック」の活動に関わっていただけますことに深く感謝申し上げます。

また、愛知教育大学名誉教授・宮川秀俊様、ユネスコ・アジア文化センター顧問・進藤由美様、広島大学准教授・永田忠道様には、お忙しい中を、後半のラウンドテーブルにゲストとしてお話しいただけますこと、心よりお礼申し上げます。

フォーラム開催にあたり、静岡大学教育学部を代表して、一言ご挨拶申し上げます。本来であれば、直接、タカミヤ環境ミュージアムに伺いご挨拶すべきところですが、他の予定と重なりビデオでのご挨拶となることをご容赦いただければ幸いです。

さて、静岡大学では、SDGs 達成のための取組みを推進するために、2020年4月に「未来社会デザイン機構サステナビリティセンター」を設置し、翌2021年9月には「静岡大学 SDGs 宣言」を発表し、すべての人々がウェルビーイングを享受できる社会の実現に向けて取り組むことを宣言しました。

大学のこのような SDGs への取組を推進する中心的な事業の1つが、本事業「社会教育・学校教育融合型の ESD を主眼としたカリキュラムパッケージの開発」です。この事業は、「文部科学省ユネスコ活動費補助金 SDGs 達成の担い手育成 (ESD) 推進事業」として今年度採択され、静岡大学教育学部が主管する「ESD・国際化ふじのくにコンソーシアム」が母体となって、活動を開始したところです。実は、2019年度から2021年度までの3年間に同事業に採択された「ESD を基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」という取組みを実施しましたが、そこで得た知見やネットワークを基盤として行うものです。

本事業の目的は、社会教育—具体的にはタカミヤ環境ミュージアムと、学校教育融合型の ESD を主眼としたカリキュラムパッケージを開発し、その成果を全国に発信することです。また、環境系の行政、団体、企業等、新たなネットワークの構築を図り ESD の更なる普及啓発も企図しています。

この後、本事業の責任者である田宮縁教授より、本事業の趣旨を説明させていただきますが、何といたっても、全国広範囲にわたり、様々な組織・団体とネットワークを構築しようとしている点に、本事業の特色があるといつてよいでしょう。

本日の前半では、本学部の渋江かさね准教授の基調講演をお聞きいただいた後、昨日より実施されている「ミュージアムジャック」のご報告と試案をご提案させていただきます。また、後半では、それらを踏まえてラウンドテーブルを予定しています。

参加される皆様との活発な意見交換や議論を通して、あらたな知見が得られ、明日以降のより充実した ESD に関わる実践が進展することを祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく申し上げます。



ESDフォーラム ミュージアムジャック

# 事業概要

静岡大学教授

田宮 縁



令和5年度文部科学省ユネスコ活動費補助金  
社会教育・学校教育融合型の  
ESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発

プロジェクトリーダー 田宮 緑（静岡大学）

1

### 補助事業の概要

ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体に、社会教育（北九州市環境ミュージアム）と学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージを開発し、その成果を全国に発信する。また、環境系の行政、団体、企業等、新たなネットワークの構築を図りESDの更なる普及啓発を行う。

### 補助事業の目的

令和5年度は、①と②を実施し、NPO法人里山を考える会が考案・実践している「ミュージアムジャック」のブラッシュアップを図り、その成果を発信する。

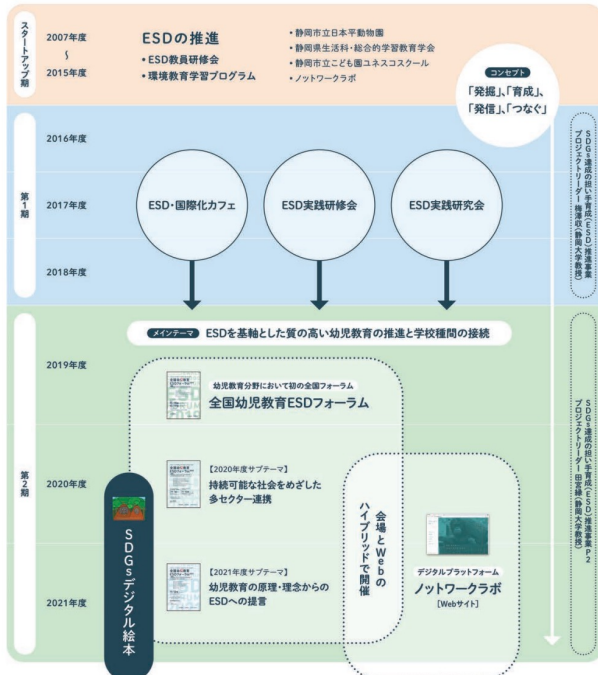
- ①カリキュラムパッケージ「ミュージアムジャック」開発
- ②「ミュージアムジャック」の発信
- ③「ミュージアムジャック」の応用（カスタマイズの可能性の検証）

本日のESDフォーラムミュージアムジャックでは、フォーラム参加者とともに「ミュージアムジャック」試案をブラッシュアップしていくことめざしています。

2



## ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムの背景



第1期 2016～2018年度  
SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業  
プロジェクトリーダー 梅澤 収

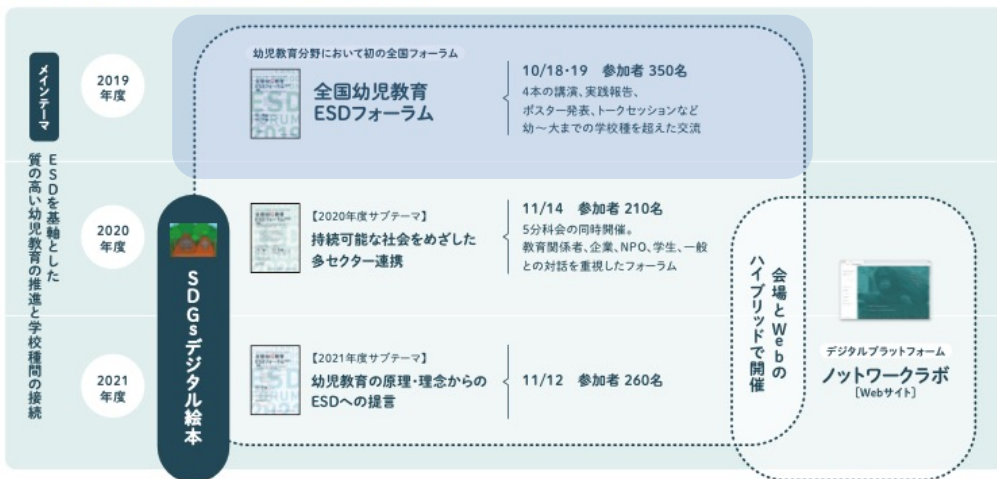
第2期 2019～2021年度  
SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業  
P2プロジェクトリーダー 田宮 縁

第3期 2023年度～ SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業  
プロジェクトリーダー 田宮 縁

3

詳細は、Webサイト「ネットワークラボ」公開資料をご覧ください。

### 【全国幼児教育ESDフォーラムのあゆみ】



ユネスコスクールを中心とした静岡市立こども園、静岡市日本平動物園、静岡県生活科・総合的学習教育学会等の運営のもと立ち上げた「全国幼児教育ESDフォーラム」が本事業の源流

「ESDを基軸とした質の高い幼児教育の推進と学校種間の接続」の取組みにおいて得た知見やネットワークを基盤に、ESD・国際化ふじのくにコンソーシアムを母体に、ESDの視点を組み込んだカリキュラムパッケージの開発を行う。

4





ESDフォーラム ミュージアムジャック

# 基調講演

「生涯学習社会における社会教育と学校教育の連携・融合」

静岡大学准教授

渋江 かさね

令和5年度 文部科学省ユネスコ活動費補助金 SDGs 達成の担い手育成 (ESD) 推進事業  
ESD フォーラム ミュージアムジャック

2024.1.20 (土)

## 生涯学習社会における社会教育と学校教育の連携・融合

渋江かさね (静岡大学)

1. 生涯学習社会とはどのような社会か

2. 子どもの学びとおとなの学び

3. 社会教育施設と学校の連携・協働



ESDフォーラム ミュージアムジャック

# ミュージアムジャック 概要紹介

NPO法人里山を考える会 代表

関 宣昭





## ミュージアムジャックのねらい

- 体験・探究学習
- 1 ジョブ体験：仕事の役割を知る・やってみる。
  - 2 エコ探究：環境のことを調べる・伝える

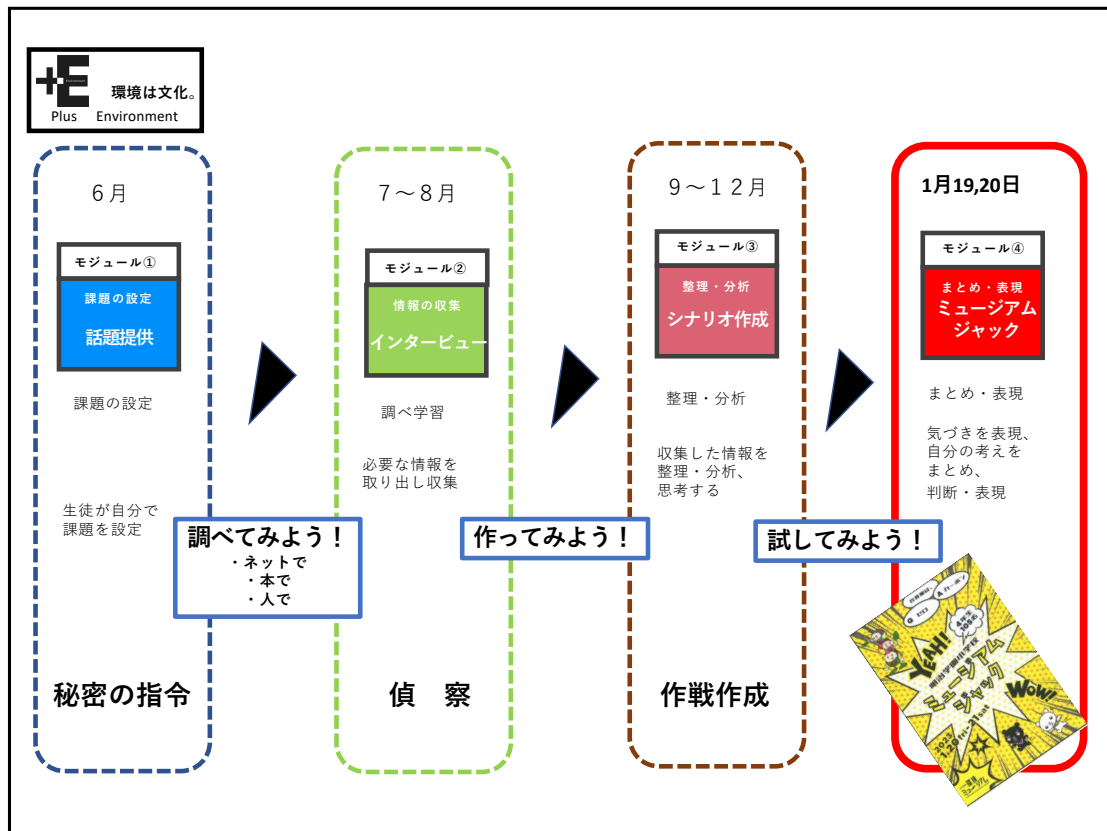
楽しく・互いに・体験から学ぶ

ミュージアムジャック大作戦  
ワクワクするきっかけづくり

- ・指令
- ・作戦会議
- ・コードネーム
- ・身分証（パスポート）
- ・合言葉
- ・秘密の武器

小学生が、ミュージアムジャック！！

明治学園小学校4年生、90人。



5

**+E 環境は文化。 Plus Environment**

**6月**

モジュール①

課題の設定  
話題提供

課題の設定

生徒が自分で課題を設定

**考える。**

6





7～8月

モジュール②

情報の収集  
インタビュー

調べ学習

必要な情報を  
取り出し収集

調べてみる。



ガイド業務

プロローグ

名前、連絡先記入のお願い  
消毒と検温のお願い  
来館者カウント  
館内放送

北九州市の自然  
北九州市の地理

1ゾーン

官営八幡製鐵所  
工業地帯としての始まり  
日本各地の公害について  
北九州市の発展について

2ゾーン

北九州市の「空の公害」  
城山小学校について  
北九州市の「海の公害」  
現在の北九州の空と海について  
婦人会の活動について  
北九州市の取り組みについて  
企業の取り組みについて  
現在の北九州について

3ゾーン

地球温暖化について  
水の循環について  
フードロスについて  
エコロジカルフットプリントについて  
ゼロカーボン

4ゾーン

北九州市のごみの分別について  
北九州市でのリサイクルについて  
自然素材の利用について  
エコラベルについて

5ゾーン

企業の活動  
団体の活動  
北九州市の現在の取り組み

地球の道・鉄の道



9～12月

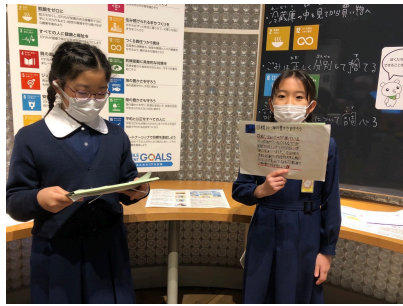
モジュール③

整理・分析  
シナリオ作成

整理・分析

収集した情報を整理・分析、思考する

創って  
試してみる。



役割

館長

運営統括  
VIP対応  
講演・講座

施設長

渉外  
館長補佐

事務

電話  
FAXの受け取り  
予約情報記入  
古着持ち込みの案内  
全体への連絡

衛生

館内の消毒

設備

設備見回り  
設備点検

ガイド

ガイド  
アクティブラーニング  
広報

チラシ作り  
SNS  
館内サイン  
記録  
企画展企画  
展示物製作  
展示物解説

ライブラリー

本の貸し出し  
本の消毒  
椅子、机の消毒  
来館者カウント

ワークショップ調整

エコ工作(環境学習サポーター)





1月20,21日

モジュール④

まとめ・表現  
ミュージアム  
ジャック

まとめ・表現

気づきを表現、  
自分の考えを  
まとめ、  
判断・表現

館長・事務長  
ガイド・受付  
ワークショップ



明治学園小学校・4年生105名が環境ミュージアムをジャック。  
子どもたちならではの視点で来館者をガイドします。  
2023年1月20日(金) 10:00~12:00 ▶4年1組 12:30~14:30 ▶4年2組  
2023年1月21日(土) 9:15~11:15 ▶4年3組

1 調べおしる

2022年6月から館内の調査を開始！  
スタッフや館長、館内の展示を学びました。



2 作っておしる

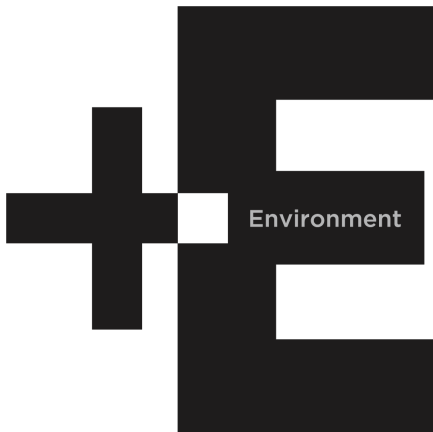
公算、SDGs、カーボンニュートラルなど  
楽しいガイドシナリオを作成しました。



環境ミュージアム20周年イベント情報 SNSで発信中!!



【ご利用案内】  
観覧料：無料 観覧時間：9時~17時(観覧部分、入館は16:30まで)  
9時~19時(体験型プログラム) / リュースコーナー・多目的ホールなど、別途。  
主催：環境ミュージアム(17年度まで)  
開催日：月曜日(祝・休日の場合は翌日)、年末年始  
【貸室のご案内】  
多目的ホール、トレーニング室、実習室を貸借しています。(有料)  
会議や集客などお気軽にご利用いただけます。



ミュージアム  
ジャック！！

やってみる。



ESDフォーラム ミュージアムジャック

# 実践報告

明治学園小学校

明治学園小学校 4年生

## 「環境ミュージアムジャック」の実践



令和6年1月20日

13

本校の教育理念

人々のために



本校の総合的な学習の時間の目標

自ら課題を見つけ、調べて得た情報をもとに多面的に考え、友達と協力しながら解決できるようにするとともに、より良い生活を創り出したり、自己の生き方を考えようとしたりする。

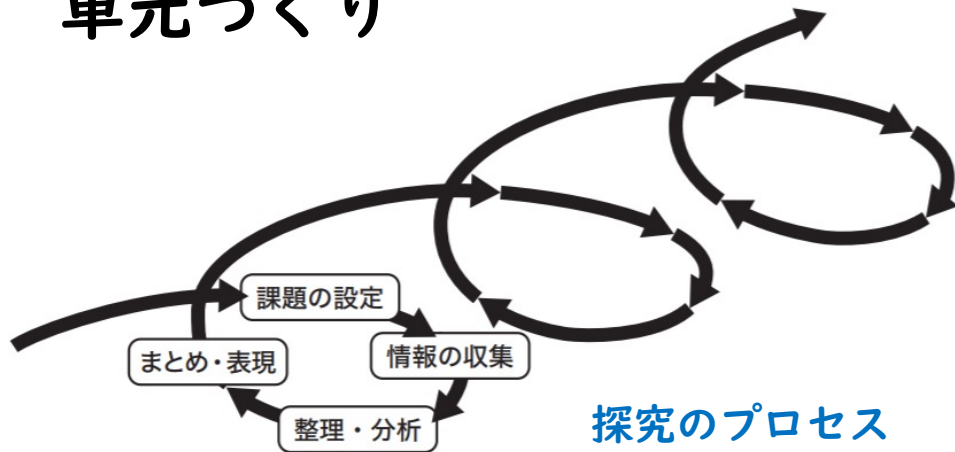


本単元で目指す子どもの姿

環境問題に関心をもち、自分にできることを考え、行動できる子ども

14

# 単元づくり



意欲の持続 学びの広がり

15

## 大切にしてきた3つの視点



身近さ・実行できる



友達と協働する



意欲の向上を図る

16

## 【1学期】

○缶ビン資源化センター・浄水場への  
社会科見学、環境センターの出前授業等



### 社会科との関連

身近さ・実行

協働

意欲向上

17

環境を守ることって大切なんだ！

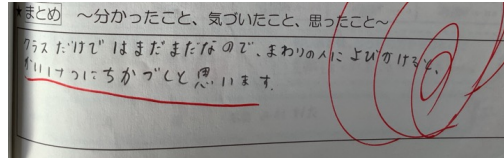
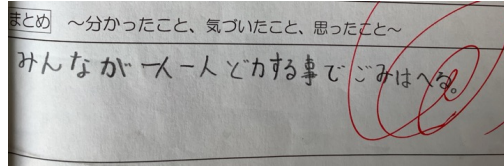
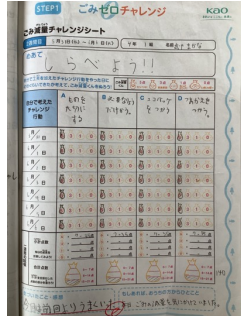
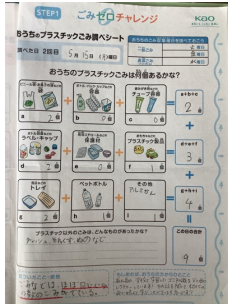


18

# 【1学期】

## 〇ごみゼロチャレンジ [6時間]

※花王（株）環境プログラム



### 家庭での環境チャレンジ

身近さ・実行

協働

意欲向上

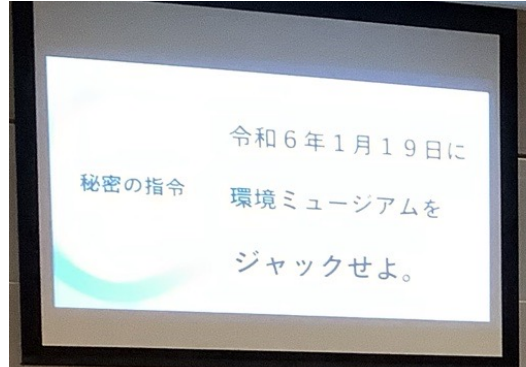
自分たちだけの取り組みだけでは  
限界があるな・・・  
たくさんの人に協力してもらったら  
いいんじゃないかな！





# 【1学期】

## ○環境ミュージアム見学

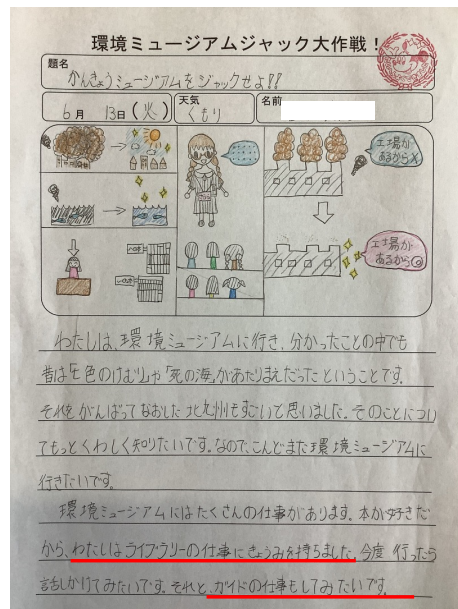
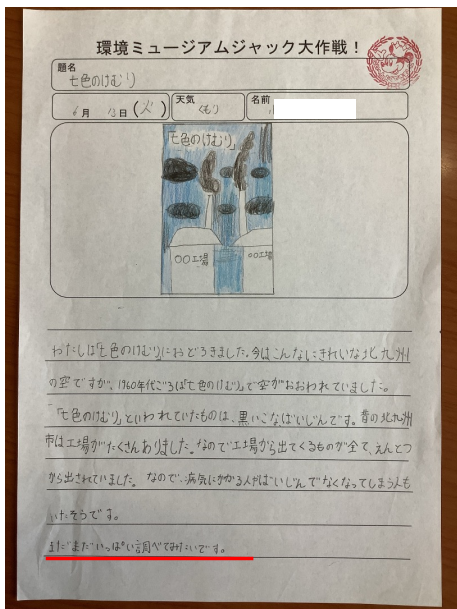


### 秘密の指令

身近さ・実行

協働

意欲向上



## 【見学後～2学期】

### ○環境ミュージアムジャック大作戦

①ガイド内容の検討[4時間]

②各グループでの準備 [10時間]

グループでの活動

③ミュージアムスタッフ逆偵察 [1時間]

専門家のアドバイス

④ガイド内容のブラッシュアップ

グループごとにアドバイス

身近さ・実行

協働

意欲向上

23



24

ジャックの目的は、  
たくさんの人に環境問題について  
伝えることだ！



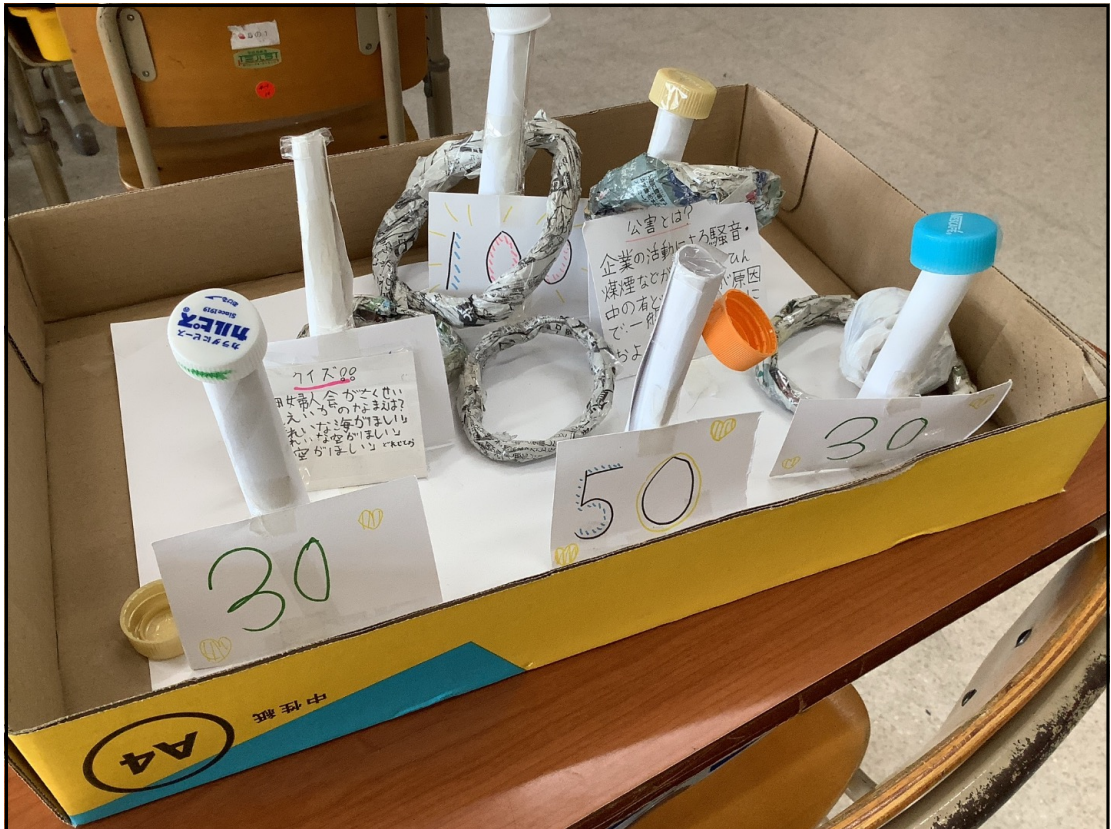
25



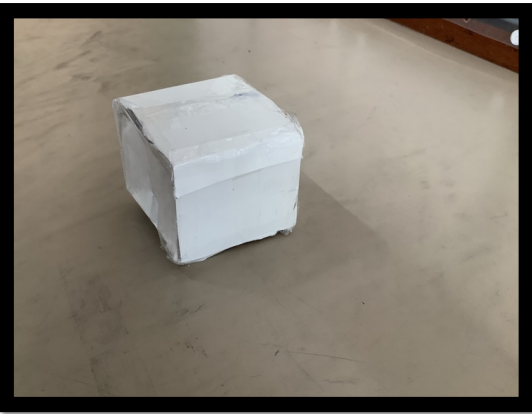
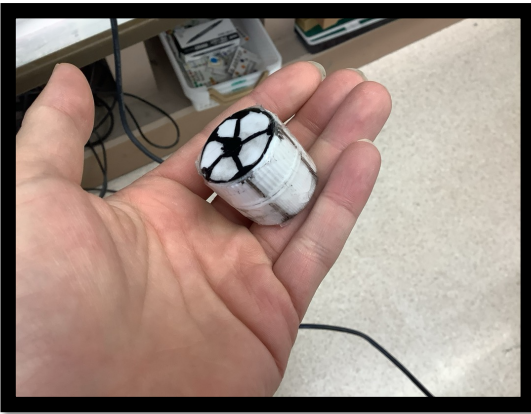
26



27



28




<トイレトペーパーのしんを使ったかざりの作り方>

<ざいりょう>


- ・トイレトペーパーのしん 1個

<使うもの>

- ・はさみ
- ・のり

<完成品>



29

【その他の活動】

○環境新聞づくりの取材 **家庭学習**

○環境新聞づくり **グループでの活動**




**国語科との関連**

**身近さ・実行**      **協働**      **意欲向上**

30

【その他の活動】

○わたしたちのエコ宣言

(スライドショー) 家庭での取り組み



31

【その他の活動】

○校内での雑紙回収活動

友達との実行の楽しさ

古紙回収のお知らせ



身近さ・実行

協働

意欲向上

32

## 【その他の活動】

### OPR活動

- ①環境イベントで配布するチラシづくり
- ②地元ラジオ局で放送するCMづくり

### PRのための表現活動



身近さ・実行

協働

意欲向上

### ○環境ミュージアムの逆偵察

意欲向上



身近さ・実行

協働

意欲向上

発表会じゃない。ガイドをするんだ！

もっと分かりやすくするにはどうすればいいかな。



35

## 【2学期末】 クラス間の交流

○ミュージアムでのリハーサル

(令和5年12月20日)



身近さ・実行

協働

意欲向上

36



## 【3学期】

○本番（令和6年12月19日・20日）



身近さ・実行

協働

意欲向上

37

## 成果と課題

### 成果

- ・SDGsを意識した実践意欲の向上
- ・教科横断的な取り組み
- ・ゲストティーチャーとのかかわり
- ・地域への働きかけの手ごたえ

↳ 活動の原動力

38

# 成果と課題

## 課題

- ・ 教科横断的な取り組みの体系化

↳ ストーリーマップ等の作成

# ストーリーマップ

ESDストーリーマップ

第4学年 人にやさしい若宮小  
福祉の町へ やさしさ広げ隊



目指す子どもの姿 お年寄りや体の不自由な人など様々な人が住んでいる若宮校区には、「あぶるさん」や「わかば学園」などの福祉施設、障がい者施設があり、利用者やそこで働く人々とのつながりの中で、みんなが協力し、支援し合って生活を工夫していることに気づき、若宮校区の良さについて考えたことをまとめ、そのことを地域へ発信するとともに、これからは優しい校区であってほしいという思いを大きくすることができる。

身に付けさせたい能力・態度 (評価の観点)  
 ①☆課題設定の力 ②批判的に考える力 ③未来を予測して計画を立てる力 ④☆多面的、総合的に考える力 ⑤コミュニケーションを行う力  
 ⑥他者と協力を態度 ⑦☆つながりを尊重する態度 ⑧☆進んで参加する態度  
 3年生の重点項目は☆赤文字

| 月                       | 4月  | 5月 | 6月   | 7月 | 8月 | 9月   | 10月 | 11月 | 12月   | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------------------------|---|----|--|----|----|--|-----|-----|---|----|----|----|
| 総合的な学習の時間               | 課題設定  |    | ステージ1  |    |    | ステージ2  |     |     | 発信・振り返り・実践  |    |    |    |
| 福祉ってなあに？わかば学園の方たちと交流しよう | 1)わかば学園の方たちやそこで働く人々との触れ合い活動に興味をもち、交流を深めるための方法を話し合い、計画を立てる。……①⑦⑧<br>2)車椅子体験学習を通して、いろいろな人たちが共に暮らす地域であることに気づき、自分たちのできることを考える。……④⑥⑦ |    | 3)わかば学園への訪問や共に活動する時にあいさつ、話し方を考えて活動することができる。……④⑦⑧<br>4)わかば学園のバザーに興味をもち、自分たちでどんなことが協力できるかを考え、活動を計画することができる。……④⑦⑧<br>5)バザーの品物を収集する方法やできることを話し合い、準備をすすめることができる。……⑤⑥⑧ |    |    | 6)学校、地域へバザー協力依頼のためのポスターを、パソコンを活用して作ったり、バザー協力依頼の話す内容、伝え方を考えたり、自分たちやわかば学園の方々の思いや願いを相手に分かりやすく伝えることができる。……④⑥⑦<br>7)体験して感じたこと、考えたことなどをまとめ、わかば学園の方たちや3年生に伝え、これからの活動に役立てようとする。……③④⑤⑦⑧ |     |     | 8)親しくなったわかば学園の方たちと共に集いむ会を計画することができる。……④⑧<br>9)わかば学園の方たちにクッキーづくりを教わるために準備することができる。……⑦⑧<br>10)感謝状を作成し、自分の思いを伝えることができる。……⑧<br>11)わかば学園の方たちの願いに気づき、これからの自分の生活に生かそうとする。……④⑦⑧ |    |    |    |
| 教科等の関連                  | 道徳科「心と心のあく手」【関連1、2】相手の立場や状況をよく考えて親切にする道徳的判断力を高めることができる。   |    | 特別活動「社会見学について」「校外学習を成功させよう」【関連1、2、3、7】希望や目標をもって生きることができ、仲間と協力し、生活や学習に連んで取り組むことができる。  |    |    | 社会科「昔から今へと続く町づくり」【関連6、7、11】よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことができる。  |     |     | 社会科「昔から今へと続く町づくり」【関連6、7、11】よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うことができる。   |    |    |    |
|                         |   |    | 社会科「ごみはどこへ」「水はどこから」「自然災害に備える町づくり」【関連6、7、11】社会の仕組みについて知り、助け合って生きていく必要性に気づくことができる。   |    |    | 国語科「調べて話そう 生活調査隊」【関連7、11】地域や3年生に伝える内容や形式を考え、必要な資料を選んで進んで書くことができる。  |     |     | 道徳科「明の長所」【関連8、11】友達や自分を多面的に理解し、よいところを伸ばそうとする道徳的実践意欲を培うことができる。   |    |    |    |

(参考：加古川市教育委員会ホームページ)

# 成果と課題

## 課題

- ・教科横断的な取り組みの体系化



ストーリーマップ等の作成

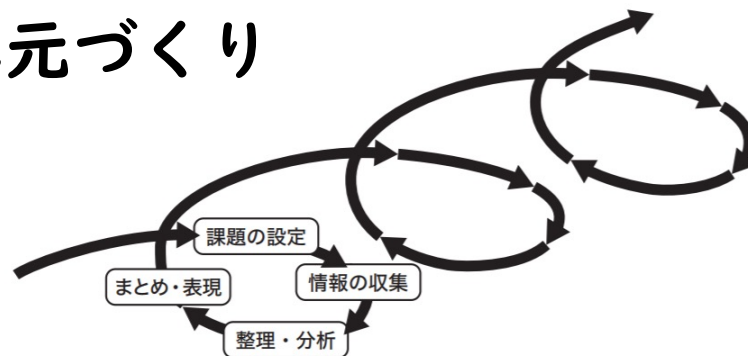
カリキュラムマネジメント

- ・育てたい能力・態度の明確化・重点化

評価

41

# 単元づくり



意欲の持続 学びの広がり

タカミヤ環境ミュージアム  
里山を考える会 (株) 花王  
FMひびき 静岡大学 など

ご支援  
ご協力

42



43



44



ESDフォーラム ミュージアムジャック

カリキュラムパッケージ

ミュージアムジャック

(試案)

令和5年度 文部科学省ユネスコ活動費補助金 SDGs達成の担い手育成 (ESD) 推進事業

# ESDフォーラム ミュージアムジャック

テーマ【社会教育・学校教育融合型のESDを主眼としたカリキュラムパッケージの開発】



カリキュラムパッケージ ミュージアムジャック (試案)

プロジェクトリーダー 田宮 緑 (静岡大学)

社会教育施設と学校がタッグを組みESDを推進するために・・・  
ラウンドテーブルでブラッシュアップ!!

1

「リアルごっこ遊び」から始まる主体的・対話的な学び

「リアルごっこ遊び」という設定が  
子どもたちを活動に没頭させ、本物の学びに導いていく。

田宮緑 (2018) 生活科・動物飼育単元における学習過程と子どもの思考の変容：期限付きモルモット貸出事業を活用した実践の量的・質的検討. 日本生活科・総合的学習教育学会学会誌「せいかつ&そうごう25」.58-67.

子どもたちがタカミヤ環境ミュージアムのスタッフとして、  
来館者へワクワク楽しいガイディングを行います!!

明治学園小学校  
ミュージアム  
ジャック!!

2024年1月19日(金) ※ESDフォーラム前日  
◎10:00～12:00▶4年1組 ◎12:30～14:30▶4年2組  
2024年1月20日(土) ※ESDフォーラム当日  
9:00～11:00▶4年3組

タカミヤ  
環境ミュージアム  
入館料無料

テーマパークでは得られないリアルな学び

2

## 遊びは、新しい文化を創造する

遊びは、成功するかどうかはわからない。見返りがあるかどうかはわからない。けど、おもしろいからやってみようという特徴がある。

- 繰り返すことが大切  
遊びだから繰り返すことができる。  
経験に基づいた戦略を複数もつことができる。
- 目的指向的行動・・・目的～手段  
どういう戦略をとればいいのか。  
オプションをつくる。
- 目的は構造化されている・・・人生の目的は何か  
状況に応じて、目的を柔軟に変化させる。

現実  
は  
ものすごく複雑

## より論理的で合理的な行動が可能に

3

## 将来の変化を予測することが困難な時代

現行の幼稚園教育要領・学習指導要領の前文

## 持続可能な社会の創り手を育む



Education for Sustainable Development

## カリキュラム・マネジメント

## 地域に開かれた教育課程

## 学校種間の接続

4

## 「生きる力」学びの、その先へ

「生きる力」を育むために

### 子供たちの学びはどう進化するの？

#### 主体的・対話的で深い学び

(アクティブ・ラーニング)

の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業を改善します。



一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と思える授業に

見通しをもって、粘り強く取り組む力が身に付く授業に



周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に

自分の学びを振り返り、次の学びや生活に生かす力を育む授業に

#### カリキュラム・マネジメント

を確立して教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図ります。



学校教育の効果を常に検証して改善する



教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業をつくる



地域と連携し、よりよい学校教育を目指す

[https://www.mext.go.jp/content/1413516\\_001\\_1\\_100002629.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1413516_001_1_100002629.pdf)

## 将来の変化を予測することが困難な時代

5

## 主体的・対話的で深い学び

### 授業改善の視点

「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」も重視

- 「主体的な学び」とは  
なりたいた自分の方向性と関連付けながら  
興味や関心のあることに取り組む  
→その子にあった学び  
→教育の目標・内容
- 「対話的な学び」とは  
「対話的な学び」 ≠ 話し合い  
「対話的な学び」のねらいは、  
子ども同士の協働・協同、教職員や地域の人、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通して、自己の考えを広げる深める。  
自分一人では、考えの広さや深さに限界 他者の存在によって、思考が深まる  
他者は誰でもよいが、多様性が必要
- 「深い学び」とは  
知識や技能は、個別の事実に知識のみを指すものではない。  
相互に関連づけられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるもの。  
知識を習得しながら、既存の知識と関連付け、組み合わせる。

遊び

繰り返し取り組む  
見通しをもって粘り強く  
→その子にあった方法 = 自己調整  
→環境構成・再構成

※村山功氏の令和5年度静岡大学教育学部附属静岡小学校研究協議会講演会資料を参考に作成

6

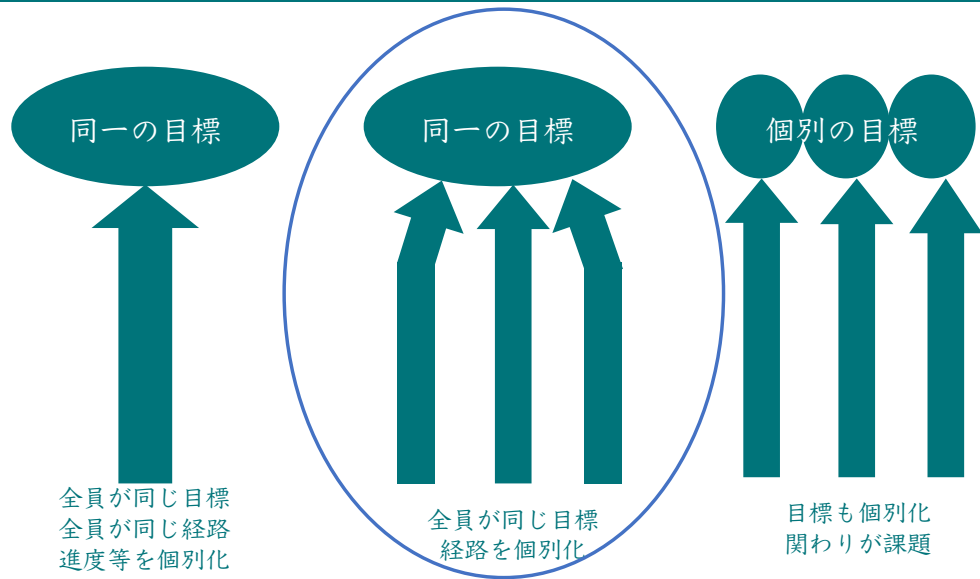




2023年12月1日（金）明治学園小学校  
 先生のお話「11月28日のミュージアムの逆偵察を機に、発表からガイドへ（自分から相手へ）、子どもたちの意識が変容した」

7

個別最適な学び・協働的な学び



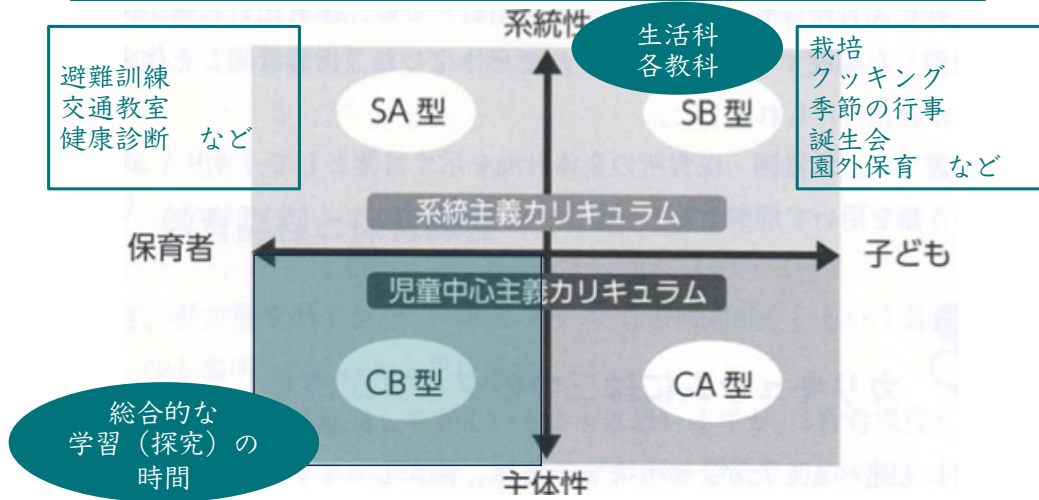
※村山功氏の令和5年度静岡大学教育学部附属静岡小学校研究協議会講演会資料を参考に作成

8

## 幼児教育カリキュラムの組織図

幼児教育の基本 「環境を通して行う教育」

- 幼児期にふさわしい生活の展開（信頼関係・直接的な体験・友たち）
- 遊びを通しての総合的な指導
- 一人一人の発達の特性に応じた教育



出典：田宮縁（2011）『体験する・調べる・考える 領域「環境」』萌文書林

9



## カリキュラムパッケージ試案

### 1. 基本情報

|           |         |
|-----------|---------|
| 学校名       | 社会教育施設名 |
| 所在地       | 所在地     |
| 教育理念・教育目標 | 目的・役割   |

10

## 2.対象となる子どもの実態

学年・組・人数

子どもの実態

子どもの課題意識

## 3.めざす子どもの姿

11

### コラム

ESDでは特に、  
共感、理解、行動に関する資質・能力を重視することで  
SDGsの前進に貢献し、教育が、個人の成功だけでなく  
グローバル・コミュニティの集団的な生存と繁栄に貢献  
するような将来を構築します。

#ESD for 2030

大人も子どもも同じ地平に立っています。

大人のミッションは、持続可能な社会の創り手の育成  
子どものミッションは、「ミュージアムジャック」  
→ミッション遂行の中で、ESDの大切にしている資質・能力  
を子どもは身につける。

子どもの姿に学びながら大人も一緒に成長するのは・・・。

12

#### 4.ミュージアムジャックの展開

| モジュール<br>0<br>身近な課題<br>との出会い | 単元を貫く<br>ストーリー | 子どもの活動                                   | 子どもの思い                                       |
|------------------------------|----------------|--|--|
| モジュール<br>1<br>課題の設定          | 秘密の指令          | ミュージアムのスタッフ<br>との対話                      | 直感（おもしろそう、<br>楽しそう・・・）                       |
| モジュール<br>2<br>情報の収集          | 偵察             | 調べ学習を行いながら、<br>ジャックの目的が明確に<br><br>活動の広がり | 「もっと知りたい」、<br>「何かやってみた<br>い」学ぶことで、意<br>欲が高まる |
| モジュール<br>3<br>整理・分析          | 作戦作成           | 逆偵察による「葛藤」<br><br>「葛藤」を乗り越える             | 「自分」→「相手」<br>意識の変容<br>「空間」→「場所」              |
| モジュール<br>4<br>まとめ<br>・表現     | ミュージアム<br>ジャック | リアルごっこ遊び                                 | 次への意欲<br>「また、やりたい」                           |

13

#### 5.留意点について

価値観の変容、行動の変容

合科的な指導

特別支援教育

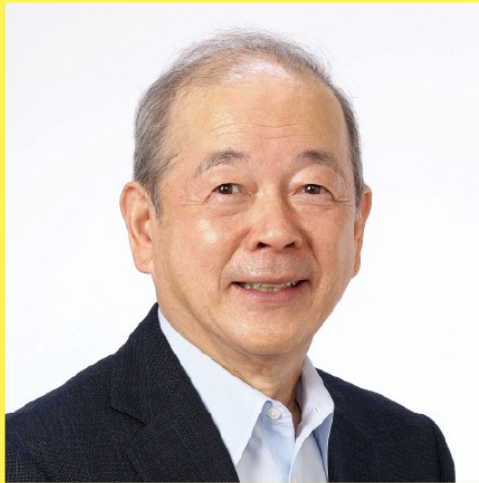
学校種間の接続

14



ESDフォーラム ミュージアムジャック

# ラウンドテーブル



ゲスト  
**宮川 秀俊**  
愛知教育大学名誉教授



ゲスト  
**進藤 由美**  
ユネスコ・アジア文化センター  
顧問



ゲスト  
**永田 忠道**  
広島大学准教授



ファシリテーター  
**田宮 縁**  
静岡大学教授

# ESD フォーラム ミュージアムジャック ラウンドテーブル アブストラクト

期日 2024年1月20日(土) 14:55-16:00 場所 タカミヤ環境ミュージアム(北九州市八幡東区)

## 1 ラウンドテーブルのねらいと進め方

・ミュージアムジャックの実践と関連づけながら社会教育と学校教育を融合させたESDカリキュラムをどのように作っていくかについて対話していきたい(ファシリテーター・田宮)

## 2 3人のゲスト(永田・宮川・進藤)の発言

### (1) 永田忠道(広島大学准教授)

ア カリキュラムパッケージの空欄に込められた思い、ねらい

(ア) 空欄に入れるコンテンツ自体がその学校のプログラムやカリキュラムになってゆく、ストーリーは毎年変わっていくからパッケージは空欄にしておく

(イ) パッケージの中身を組み替えていく、組み替えていくことでパッケージが成長していくことをねらう

イ 今日、感銘を受けたもう一つの事

(ア) 北九州市は公害の都市、この都市で育った子どもたちがそのことの価値を自分の人生でどれだけ出せるかが一番の評価になる

(イ) 学校と地域、ミュージアムがつながることが求められている、それによって学校が陥っている病みみたいなものを克服する、今日のミュージアムジャックを見て、そうした仕掛けが見えてきている

ウ コメントに対するファシリテーター・田宮の捉え

・対話的な学びが必要という重要なポイントが出てきた、また地域にあった取り組みをしていくことが必要という指摘もあった

### (2) 宮川秀俊(愛知教育大学名誉教授)

ア ミュージアムジャックの感想

(ア) ミュージアムジャックによる3つの能力育成(プレゼンテーション力、コミュニケーション力、科学・技術力)

(イ) 環境ミュージアムは「不易と流行」の教育の場、環境が不易、公害が流行/ミュージアムジャックは明治学園小学生が環境問題、公害問題に携わるよい出発点になっている

(ウ) 環境ミュージアムはJICAの活動を展示している、テーマは「公害克服で培った技術・ノウハウを世界へ」/JICAの活動にも関わる私は国際協力に取り組むミュージアムの活動に共感する

(エ) 静岡大学のこの取組みは SDGs の 17 番目の取組み「パートナーシップで目標を達成しよう」に該当している

イ コメントに対するファシリテーター・田宮の感想

・環境ミュージアムに対する価値づけを違う視点からしていただきうれしく思う。パートナーシップは少しずつ広がっているとあらためて感じた

(3) 進藤由美 (ユネスコ・アジア文化センター顧問)

ア ミュージアムジャックの感想

(ア) ミュージアムジャックは、学校教育と社会教育の融合、おとなと子どもが同じ地平に立って共に学ぶ対話が、すでに始まっていることに気づくきっかけとなった

(イ) 楽しく実践されている、楽しくないと続かないから非常によいと感じた

(ウ) 子どもたちが地域に飛び出して地域の人たちと自主的に学び合うことはチャレンジングなことだ、教師にとってもそれ以上にチャレンジングである、この活動を ESD の活動と呼んでいいだろう、この活動には社会教育の醍醐味がある

イ カリキュラムパッケージへの期待

(ア) 社会教育と学校教育を融合させた ESD のカリキュラム、余白たっぷりのカリキュラムができることを期待している

(イ) 既定路線のない未来を歩んで行かなければいけない子どもたち、彼らの生きていく力を養う学びの中から、新たな価値観、新たな文化が生まれてくる、その学びのカリキュラムパッケージづくりに期待する

### 3 明治学園小学校長との対話

(1) ミュージアムジャックの実施に向けた対話の開始と現状 (明治学園小学校 佐藤校長)

ア 関さん (NPO 法人里山を考える会代表) と環境ミュージアムさんとの話し合いが 2 年ぐらい前から始まった、まだ手探りの段階である

イ 去年初めて実施した、学校として継続していくために足跡 (記録) を残す、ストーリーマップはその足跡、今年も余白のところでスタートしている (去年の原稿はほとんど使っていない、内容は毎年変わる)

(2) カリキュラムパッケージと ESD ストーリーマップの作り方 (ファシリテーター・田宮)

ア カリキュラムパッケージのフレームは子どもたちの状況、社会の動きを見て変えていく、記録は後に続く人の参考になる程度のもの

イ ESD ストーリーマップは達成目標ではなく方向目標で書いて欲しい

(3) 持続可能な社会の創り手を育成する上で大切なこと(佐藤校長と田宮との対話)

ア 佐藤校長—NPO 法人里山を考える会とは 20 年以上前から交流がある、子どもたちが自然に触れワクワクするような活動をさせていただいている、持続可能な社会の創り手の育成で大事なことは子どもたちにワクワク感があることで、そのことを環境ミュージアムの方から学んでいる

イ ファシリテーター・田宮 学校外の方と対話して自らの考えを変える、そのことは教師にとっても成長することになる

#### 4 静岡からの参加者の発言 I (特別支援学校、幼稚園、動物園)

(1) 特別支援学校 (山田浩昭 静岡県立浜松特別支援学校元校長)

ア ミュージアムジャックの活動に対する感想

(ア) この活動で「主体的に」というのは、具体的に言うと、「本気である」かつ「楽しい」ということであると、感じた

(イ) それぞれが自分のやり方でやっていてテーマもそれぞれである／しかしこの活動はいずれも一番重いテーマである「環境」に向かっている、方向目標がきちんとしている

(ウ) この活動がめざしているものは、特別支援学校の生活単元学習や遊び学習指導の中で脈々としてきたこととぴったり一致している／幼稚園にも同じ考えがあるだろう

(エ) この活動方法は年齢、学校種、子どもたちのありようを超えて有効であると感じている／この活動を視野に入れ特別支援学校の学習指導をブラッシュアップしていくといいと思っている

イ ファシリテーター・田宮の意見

(ア) 小学生がリアルごっこ遊びをする、本気が出るためには借り物、嘘物ではだめで、この活動はそれができるようになっていただろう

(イ) 共感し学び行動変容へとつなげていく仕掛けは年齢に合っていないとてはならない／どの年齢にもその仕掛けは必要でおともも同じである／楽しくないと学べないから楽しくなる仕掛けが活動の根底にあるだろう

(ウ) 特別支援学校の実践はどこをとっても ESD である／その実践を ESD の視点から価値づけていくとよい

(2) 幼稚園 (遠藤順子 富士市保育幼稚園課指導主事)

ア 富士市田子浦幼稚園の活動を紹介しつつミュージアムジャックの感想を述べる

(ア) 田子浦幼稚園では年長児が遠足で日本平動物園のガイドツアーを体験し、その体験を動物図鑑と



して自発的に表現した

(イ) 体験の振り返りを教師主導で行っていると思われる園も多いが、保育者は自身の感性で子どもの興味や関心を捉え、子どもの主体性を促していくことが肝要

(ウ) 子どもの主体性を促すものがいたるところに転がっていることに気づくおとなのセンスや遊び心が大切にされていることをこの活動で気づかされた

(エ) 動物園の遠足の後で、子どもが親を動物園に連れて行きガイドしたとのこと。それこそが生活に生きる学びである

(オ) 環境ミュージアムの横にある46億年の道を子どもが楽しみ環境ミュージアムへと誘導される／繰り返し訪問できる身近な施設の教育的価値に気づくことが大切である／子どもが再びミュージアムを訪れる時、ミュージアムの持つ意味も変わって来るのではないかと思った

イ ファシリテーター・田宮の感想・意見

(ア) クラス全体に広がった動物図鑑づくりはとても素敵なお実践だと思う

(イ) ミュージアムジャックでも子どもたちが絵本をつくっていた。体験したことを様々な形で表現し繰り返し学ぶことが重要だと思う

(ウ) 46億年の道は地球誕生から生命の歴史を体験し学ぶことのできる施設、そこを訪れた幼児は環境ミュージアムに親しみを持ち、やがてミュージアムを繰り返し活用するようになる

(3) 動物園（柿島安博 静岡市立日本平動物園元園長）

ア ファシリテーター・田宮—日本平動物園では近隣の小学校の総合的な学習の時間に子どもたちにガイディングをしているが、子ども主体の学びを促すために社会教育施設が意識した方がよいこと、今日のミュージアムジャックの感想を述べてください

イ 柿島元園長の回答

(ア) ミュージアムジャックの感想—子どもたちがタブレットを駆使したりアニメを描いたりして取り組んでいる姿を見て、私たちが受けてきた教育とはずいぶん様変わりしていると思った、子どもたちは楽しんで学んでいると思った

(イ) 社会教育施設として意識すること—子どもは自らの課題に対し自ら考えて行動を起こすことが求められている／学校教育に携わる地域のおとなは教えるだけでなく子どもの実態に応じて導く役割に徹することが大事で、そのために先生方と方法や課題を共有する必要がある／社会教育施設のスタッフは学校教育が変わってきていることを勉強していく必要がある

ウ ファシリテーターの田宮と柿島の対話（昔の教育と今の教育の比較及び課題）

(ア) 田宮—柿島さんが学校教育で受けてきたものにこういう形のものがあったか？／柿島—おとなに対し子どもたちがプレゼンしたりガイドしたりすることはあまりなかった

(イ) 田宮—今は興味や関心があるところから好きなやり方で取り組んでいる、その姿がミュージアムジャックのなかで確認できた

(ウ) 田宮—学校教育が変わってきていることを知らない人がまだ多いから、もっと発信してゆきたい／また学校と施設が対話していくことが重要である

## 5 ゲストとフロアの対話

### (1) ゲストの永田とフロアの柿島との対話

ア 永田—柿島さんは動物園一筋か？ 柿島—否、最後の15年だけ動物園に勤務した

イ 永田—なぜそう質問したかという、いろんな世界を知った上で学校の先生になる、あるいは学校の先生をずっとしていても他の世界とのつながりをもたないといけない、学校と社会がつながっていないといけないと思うから

ウ 永田—しかるに今はそうではなく、おとなたちが子どもたちを学校の枠内に閉じ込めてしまうところがあるから、その枠からどれだけはみ出せるか、飛び出せるかが、大事になる

### (2) ゲストの永田とフロアの佐藤校長との対話

ア 永田—佐藤さんは関さんとは20年来のお付き合いがあるとのことであるが、学校ともつながっていたのか？／佐藤—つながっていた、学校は色々な活動の場を地域の方から提供していただいていた

イ 永田—明治学園の創設者は北九州市をつくった人、子どもたちには学校外で行う勉強の大切さが伝わっていたらう

### (3) ゲストの永田とファシリテーターの田宮との対話

ア 田宮—柿島さんが体験したことは経験値となってしみだしてくる、学校の先生は先生としての奥義を深めなければならないが、狭い意味での専門家になってしまうと社会に対応できなくなってしまう、これからの教師はそれを避けなくてはならない

イ 永田—大学の教員も同じで専門の中だけでつながるのではなく、いろんな人とつながっていなければこれからは駄目と言われる、それゆえ田宮さんともこの世界でつながっている

ウ 永田—「そんな遊び事でこの町がよくなるものか」と大牟田でおとなから言われて泣いた子に、おとなはどう対処したらよいか、対処法を松岡さん（タカミヤ環境ミュージアム館長）から聞きたい

### (4) ゲストの宮川とフロアの明治学園小学校・渡辺教諭との対話

ア 宮川—この取組みで苦勞だったことはどこか、また実施した学年はなぜ4年生だったのか

イ 渡辺教諭—4年生は環境というテーマを身近に感じやすい学年だったから

ウ 渡辺教諭—実施する上で子どもたちに問題はなかった、問題は教員の側にあった、その問題への対

応が教員の側で今後の課題になる

エ ファシリテーター・田宮—仕組みがある程度できていて最初の単元の構成がよかったから円滑にできたのではないか

## 6 静岡からの参加者の発言2（小学校）（富士市立富士第一小学校元校長）

### (1) ミュージアムジャックの効果と先生方の努力

ア ミュージアムジャックは本物の社会の中で本物の他人と関わって行う活動、総合で求めたい力をしっかりつける、そこでつけられた力はおとなになって生きて働く力になっていく

イ この活動はいろんなことに興味をもって考え続けて行動する素地を養う

ウ この活動には遊び心やチャレンジ精神が必要である／「それはいいね、やってみようよ」と先生が言い添えてくれる学校の努力があってこの活動は実践できる

### (2) それぞれの地域で行うミュージアムジャックの実現の可能性

ア 地域の素材を生かせる可能性を感じる／展示物がなくてもそこを利用する人や運営する人に深く関わることで類似の目的は達成可能になると思う

イ その土地その土地の持つ材をどのように子どもにファシリテートしていくかが問われる／子どもは学ばせてもらう施設で学ばせる立場に換わる、発想を豊かにし計画を立てていくと豊かに学べるたくさん課題が生まれ、探究が続くようになる／ミュージアムジャックにはそんな活動ができる可能性がある

### (3) コメントに対するファシリテーターの思い

・ミュージアムジャックが自分の生き方まで考えられるようになる総合的な学習の形になっていくといいと思う、それがESDにつながっていく

## 7 終了

### (1) ファシリテーターの終了の言

### (2) 閉会の挨拶（環境ミュージアム館長、松岡俊和）

### (3) 総合司会の閉会の挨拶と連絡

## ESD フォーラム ミュージアムジャック ラウンドテーブル 記録

期日 2024年1月20日(土) 14:55-16:00 場所 タカミヤ環境ミュージアム(北九州市八幡東区)

### 1 ラウンドテーブルのねらいと進め方

・ミュージアムジャックの実践と関連づけながら社会教育と学校教育を融合させたESDカリキュラムをどのように作っていくかについて対話していきたい(ファシリテーター・田宮)

(司会・遠藤 富士市保育幼稚園課指導主事)

後半のラウンドテーブルを開始致します。

ここからはファシリテーターの田宮さんにマイクを渡します。よろしくお願いいたします。

(田宮 縁 静岡大学教授)

このラウンドテーブルでは、ミュージアムジャックの実践と関連づけながら、ESD フォーラム前半で私から提案した社会教育と学校教育を融合させたESDカリキュラムをどのように作り上げていくのか、ということについて、対話していきたいと考えております。ここでの対話をもとに、カリキュラムをブラッシュアップしていきます。

このラウンドテーブルではフラットな関係の対話を進めていきたいと思っておりますので、「先生」ではなく、「さん」と呼ばさせていただきます。

なお本日のラウンドテーブルでの発言は、報告書に掲載いたしますので、ご承知おきいただけると幸いです。

### 2 3人のゲスト(永田・宮川・進藤)の発言

(田宮)

まず、ゲストの方々から、午前中のミュージアムジャックやESD フォーラム前半の感想と、専門的なお立場でのお話を頂きたいと思っております。5、6分でもお願いできるとありがたいです。

最初に永田さん、総合的な学習の時間あるいは社会科教育という立場から、お話をお願いします。

#### (1) 永田忠道(広島大学准教授)

(永田忠道 広島大学准教授)

ありがとうございます。田宮先生と私は生活科と総合でつながりがあります。私はいま日本生活科総合的教育学習学会の事務局長をしています。田宮先生には…

(田宮)

…先生ではなく、…さんで。

(永田)

田宮さんには、学会の編集委員長をしてもらっていたので、そのご縁もあって、今日はご一緒させていただいています。今日、午前中、明治学園小学校の児童のみなさんの姿を見させていただき、また田宮さんを含めた方々のお話をうかがいました。

まずパッケージのことからです。

## ア カリキュラムパッケージの空欄に込められた思い、ねらい

(ア) 空欄に入れるコンテンツ自体がその学校のプログラムやカリキュラムになってゆく、ストーリーは毎年変わっていくからパッケージは空欄にしておく

田宮さんが、あえてカリキュラムをつくり込むのではなく、空欄にされたというのがやはりとても大きいと思います。パッケージとかカリキュラムというと、明治学園小学校の児童のみなさんの姿を通してこれをもっと普及するための雛形みたいなものをどうしてもつくってしまうんですが、田宮さんはあえてそこを空欄にしました。空欄にした中で、いろんな学校がその空欄をフレームにしたり、チェックシートとして使ったりすることにより、そこにを入れていったコンテンツ自体がその学校のパッケージとかプログラムとかカリキュラムになっていくと。明治学園小学校も今年是这样だけれど来年の子どもたちはまた違うと。またそのストーリーができていく、できていくべきだと。ストーリーライン、ストーリーマップは大事ですが、そのストーリーは毎年変わっていくべきだと。というのが、おそらく田宮さんのねらいかと。

(イ) パッケージの中身を組み替えていく、組み替えていくことでパッケージが成長していくことをねらう

そしてもう一つのねらいとして遊びがある。学びと遊びの違い、学習と遊びの違いは何かといたら、遊びは再現性がどれだけあるか。再現性のある遊びって、はっきりいっておもしろくないですね。遊びは個々とか一回一回のものが変わるからこそおもしろい。楽しい。それができるのがまさに人間で、人間たる由縁ということです。この前、山極先生がここで話をされたですね。人間が他の生き物と違うポイント、一つの指標として、遊びがあります。これから社会が変わっていく中で、我々人間が人間らしく生きていくときに、探求は大事ですが、今日、明治学園小学校の諸藤先生が探究のスパイラルの図（『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』で示されている）を書いてくださっていました。探究のスパイラルも大事なんですが、文科省とかで話をするのは、探究のスパイラルに全部のっからないで下さいと。我々も一生懸命言っています。探究のスパイラルはあくまでも、田宮先生の今日のカリキュラムパッケージでいけば、枠だったりフレームでしかないので、サイクルが途中で2回、回るような部分があったりサイクルが入れ替わっても構わないと。田宮さんが今日出して下さった空欄も、田宮パッケージはいいけども、組み替えた方がいいと思われたのもどんどん組み替えていくと。そこでまたそのパッケージが成長していくと。それが田宮さんとかコンソーシアムとか静岡大学の先生方が組もうとしていることなのではないかと思いました。

## イ 今日、感銘を受けたもう一つの事

### (ア) 北九州市は公害の都市、この都市で育った子どもたちがそのことの価値を自分の人生でどれだけ出せるかが一番の評価になる

あと最後に、今日私がもう一つ感銘を受けたことです。私は広島から来ていますが、北九州の子が何を学ぶか、広島の子が何を学ぶかといったときに、4年まで待つ必要があるのか、5年まで待つ必要があるのか、ということです。社会科の教科書では5年から環境をやります。昔は環境イコール公害で公害をやっていたのですが、今の小学校の教科書には公害という言葉ももう出なくなりつつあります。でも北九州の子はそれでいいのかということです。

今日、館長さんが教えて下さったこのミュージアムのつくり自体、北九州の町（豊かな自然）から公害に入って、その先で環境とつながっている。北九州の子であれば、明治学園小の子であれば、もうどこに行っても、私はこうやって育ってきたという、まさにここで育った価値みたいなのを子どもたちが成長した時にどれだけ出せるかというのが一番の評価で、目の前の細かい評価はしなくてよい。

### (イ) 学校と地域、ミュージアムがつながることが求められている、それによって学校が陥っている病みみたいなものを克服する、今日のミュージアムジャックを見て、そうした仕掛けが見えてきている

これも田宮さんの名言の一つとして今日私がメモしたものです。「子どものミッションはジャックだけでいい」「それによってどんな力がついたかというのは評価しなくていい」。ところが小学校の先生たちはまじめだから、どうしてもその評価を出さないといけませんが、これが、関さんがおっしゃったように「先生は制限を付けたり、妙に価値づけたりして評価を付けようとする」ので、大人というか、関さんとか松岡館長みたいな人がそれを排除すると。そのために、学校と地域、ミュージアムとがつながることが求められているかと。そのことによって、学校が陥っている病みみたいなものを克服する。地域の方とか博物館の方々が「それはいい面もあるけど、そうじゃない面もある」と言ってくださるのが大事なことです。

今日、見ていて、私にはそれがすごく見えてきているので、もう本当にすごく学ばせていただいていると、そんな感じです。

## ウ コメントに対するファシリテーター・田宮の捉え

### ・対話的な学びが必要という重要なポイントが出てきた、また地域にあった取組みをしていくことが必要という指摘もあった

(田宮)

ありがとうございます。発言の最後におとな同士のつながり、対話が必要だという重要なポイントが出てきたかと思います。また地域には地域にあった取組みをしていくことが必要というご指摘。要はそういったカリキュラムをつくっていかねばならない。そこのところが重要かと思いました。

次に、ESDに造詣が深い宮川さんから、ご発言いただきたいと思います。お願いします。

## (2) 宮川秀俊（愛知教育大学名誉教授）

（宮川秀俊 愛知教育大学名誉教授）

ESD コンソーシアム愛知の宮川です。よろしく申し上げます。ミュージアムの内容、また明治学園のみなさんがよい内容を発表されて、大変、感銘を受けております。そういった中で、いくつかコメントさせていただきます。

### ア ミュージアムジャックの感想

#### （ア）ミュージアムジャックによる3つの能力育成（プレゼンテーション力、コミュニケーション力、科学・技術力）

みなさん、トヨタ自動車のエンブレムをご存じですか。輪が三つありますね。輪は、個人環境、社会環境、自然環境を表しています。このバランスが大事ということでこのエンブレムはつくられていると思いますが、その観点から見ますと、今日の明治学園小学校のみなさんは、どういった力が養われたかという、次の3つです。

1つはプレゼンテーション能力が育成されたかと思えます。2つ目はいろんな話し合いを通して、あるいは譲り合い通して仲間とのコミュニケーション能力が育成できたかと思えます。3つ目は実際の環境に関わることで、科学、技術、そういったものの基礎能力の習得ができたかと思っております。

そうした意味では、SDGsのナンバーで言えば4の教育、価値のある教育、立派な教育、に該当するのではないかと思っております

また明治学園の先生たちについても、指導者の指導能力の開発が行われたかと思っております。多様な特徴を有する児童に対し画一的な教育を今までされてきたかと思えますが、今回は、個別化あるいは個性化に対応した検討がされたかと思えます。先生たちにとっても非常によい機会になったかと思っております。

#### （イ）環境ミュージアムは「不易と流行」の教育の場、環境が不易、公害が流行／ミュージアムジャックは明治学園小学生が環境問題、公害問題に携わるよい出発点になっている

続いて、環境ミュージアムに関連してお話しさせていただきます。テーマパークとしては大変まとまりがあり、主張、目的が分かりやすく、また丁寧な内容、展示であったかと思っております。

私自身は1974年に岐阜大学農学部におり木材工学を勉強しておりました。当時の研究者の統一した考えは木材の有効利用で、その中では間伐材の有効利用がテーマに上がっておりました。また環境という言葉が当時から使われ、現在もずっと続いていて、環境はいわゆる不易の課題かと思っております。一方、当時、間伐されなかった普通の木材は今、50～60年を経て使える状況になっていますが、今日の林業白書を見ても間伐材という言葉は出てきません。そういった意味では間伐材は時代とともに変わる流行かと思えます。ですから「不易と流行」はいろんなところに当てはまるかと思っております。

その当時起きていた水俣病、あるいは北九州の公害問題を私は知っております。私は生まれが熊本です

ので水俣病にも関係しておりました。そういった中で、公害・環境はずっと引き継いでいるテーマです。今日、公害という言葉があまり聞かれなくなってきましたが、環境問題ということでは、内容はいろいろ変わってきているかと思いますが、まだまだ続いております。

そういったことから、「不易と流行」がやはりここで検討していくことになるかと思っております。明治学園小学校のみなさんは、おとなになっていくにつれて、不易と流行の環境課題、環境問題に携わっていくと思われませんが、そういうことでは、今日はよい出発になったかと思っております。

### **(ウ) 環境ミュージアムは JICA の活動を展示している、テーマは「公害克服で培った技術・ノウハウを世界へ」／JICA の活動にも関わる私は国際協力に取り組むミュージアムの活動に共感する**

3つ目は産業教育です。JICA の展示もありましたが、私は JICA 中部で産業技術教育のコースを二十数年担当してきました。担当はいったん終わったのですが、ウクライナの侵攻が始まりましたので、これは何かできないかと思い、再び産業技術教育ということで JICA に関わり、今はウクライナを支援しております。

そういった中で北九州の JICA のセンターの人と話すことがありました。こういったら悪いですが、JICA 九州が何故、福岡市ではなく北九州市にあったのかとずっと思っていたのですが、その疑問が今日晴れました。展示の中に国際協力というのがありました。そこに書かれていた文言は「公害克服で培った技術・ノウハウを世界へ」というテーマ。「ああ、これだったのか」と思い、何年ぶりかに私の疑問は解決しました。

こちらのミュージアムでは、特にそういったものを取り上げ、展示されているということで、非常に共感している次第です。また現在は生ごみの堆肥の事業、環境技術による国際協力が行われていることを見ました。また国際表彰も行われているということでした。多様化するいろいろな問題のある国々が多いわけですが、国際協力の一つとしては大事な業務かと思っております。

### **(エ) 静岡大学のこの取組みは SDGs の 17 番目の取組み「パートナーシップで目標を達成しよう」に該当している**

最後ですが、本日は静岡大学の田宮さんをはじめ多くの組織の方々が、協力してこの活動に参加されております。このことは SDGs の 17 に該当するのではないかと思っております。以上です。

#### **イ コメントに対するファシリテーター・田宮の感想**

**・環境ミュージアムに対する価値づけを違う視点からしていただきうれしく思う。パートナーシップは少しずつ広がっているとあらためて感じた**

(田宮)

ありがとうございます。拍手をお願いします。今、宮川さんから、この取組みは、SDGs の 17 番目のパートナーシップに関係するというお話がありました。私はそんなことは全く考えずにいつも動いていましたが、そういうふうな価値づけをして頂き大変うれしく思いました。

静岡県内ではパートナーシップがなされていると勝手に思っていたのですが、今のお話で、それが少しずつ広がっているのかなとあらためて感じました。加えてモノづくりの観点から環境ミュージアムに対して価値づけ、私自身すごくうれしく思いました。ありがとうございます。



それでは続いて、進藤さんから、少し広い意味での社会教育という視点からお話いただければと思います。また専門的なところからでも結構ですので、お願いいたします

### (3) 進藤由美 (ユネスコ・アジア文化センター顧問)

(進藤由美 ユネスコ・アジア文化センター顧問)

ありがとうございます。ユネスコ・アジア文化センターから参りました進藤と申します。よろしくお願  
いいたします。

#### ア ミュージアムジャックの感想

**(ア) ミュージアムジャックは、学校教育と社会教育の融合、おとなと子どもが同じ地平に立って共に  
学ぶ対話が、すでに始まっていることに気づききっかけとなった**

社会教育の視点からということですが、今日、午前中に、ミュージアムジャックを拝見させていただきましたが、学校内での学びである学校教育と地域コミュニティーすなわち社会教育での学び、この両者の対話  
がもうすでに行われている場を目撃する経験となりました。すでに学校教育と社会教育とは2つのカテゴリーで分けられるものでもなく、もうすでに対話が始まってきていること。あと先ほど田宮さんのご発言の中にもありましたが、「おとなも子どもも同じ地平に立つ」というところで、この場合ですと、教え手と学  
び手、そこももう融合して同じ地平に立っているということで、共に学び合うといったことが、もう始まっ  
てきている、ということに今回、気づききっかけとなりました。

**(イ) 楽しく実践されている、楽しくないと続かないから非常によいと感じた**

そしてまた、とても楽しく実践されていたので、それもいいなと思いました。楽しくないと続かないの  
で、やはり楽しいというのは、非常にいいことだなと感じました。

**(ウ) 子どもたちが地域に飛び出して地域の人たちと自主的に学び合うことはチャレンジングなこと  
だ、教師にとってもそれ以上にチャレンジングである、この活動をESDの活動と呼んでいいだろう、こ  
の活動には社会教育の醍醐味がある**

地域には様々な資源があります。例えばこのタカミヤ環境ミュージアムもその一つだと思います。児童  
生徒が学校の外の世界に触れること、則ち地域の公共施設をいわゆる視察するとか、見学する、ということ  
だけにとどまらず、今回のミュージアムジャックのように、子どもたちが自らの安全圏と言うかコンフォー  
トゾーンから飛び出して、自主的に地域の人たちと学び合う、その主体となる、ということが、子どもたち  
にとっては非常にチャレンジングではありますが、同時に先生たちにとっても、おそらくそれ以上にチャレ  
ンジングなことだったかなと感じております。

こうした活動をESDの活動と呼んでいいと思いますが、そうした活動、実践を積み重ねていくことが、  
社会教育から得る醍醐味になるのかなと思います。

#### イ カリキュラムパッケージへの期待

### (ア) 社会教育と学校教育を融合させたESDのカリキュラム、余白たっぷりのカリキュラムができることを期待している

先ほど永田さんから、カリキュラムパッケージの試案へのご意見があり、空欄であることの大切さをお話されましたが、実は私も同じ事を感じておりました。こういった社会教育と学校教育を融合させたESDのカリキュラムづくりは、ぜひ、余白たっぷりのカリキュラムであることを期待したいと思っております。

### (イ) 既定路線のない未来を歩んで行かなければいけない子どもたち、彼らの生きていく力を養う学びの中から、新たな価値観、新たな文化が生まれてくる、その学びのカリキュラムパッケージづくりに期待する

今や正解のない、既定路線のない未来を歩んで行かなければいけない子どもたちの、おとなもそうですが、生き抜く力、生きていく力を養っていく、育てていくためには、自分の理解出来る世界観だけではないところで外に出て、他者と出会って、対話を重ねて、そして常に問を持ち続けていくこと。そういった学び合いの中から新たな価値観、新たな文化が生まれてくると思いますので、そういったことでも、今回のカリキュラムづくりは個人的にも非常に期待しているところです。以上です。

(田宮)

ありがとうございました。今、「余白たっぷりの…」とありましたが、子どもたちも毎年違う、さらに世の中も毎年変わっていくので、フィックスできないです。そこをきちっと抑えておくことが大切なんですよ。

## 3 明治学園小学校長との対話

### (1) ミュージアムジャックの実施に向けた対話の開始と現状(明治学園小学校 佐藤校長)

#### ア 関さん(NPO 法人里山を考える会代表)と環境ミュージアムさんとの話し合いが2年ぐらい前から始まった、まだ手探りの段階である

今、進藤さんから「対話はすでに行われているんじゃないか」というご発言がありました。それでここで、対話をいつごろから始めているかについて、校長先生の佐藤さんがいらっしゃっているので、お聞きしたいと思います。

対話がいつから始まったのか。ちょっとだけ教えてください。今までの対話のプロセスの中でお願いいたします。

(佐藤一成 明治学園小学校校長)

明治学園小学校の佐藤と申します。今日はありがとうございます。この計画が始まったのは2年ぐらい前からです。関さん(NPO 法人里山を考える会代表)と環境ミュージアムさんとの話が少しずつ始まりました。まだ手探りの段階です。

#### イ 去年初めて実施した、学校として継続していくために足跡(記録)を残す、ストーリーマップは

## その足跡、今年も余白のところでスタートしている（去年の原稿はほとんど使っていない、内容は毎年変わる）

去年、初めて実践し、去年の子どもたちの発表原稿も残しておきましたが、今年の子はそれをほとんど使わずに行いました。

ただ学校は、教員も変わっていきますので、カリキュラムを継続していくためには、ある程度の足跡は残しておきます。今年度はこういう実践をした、昨年はこういう実践をしたと。それを使う・使わないの選択はあると思いますが、学校として継続していくためにはそれを残しておく。今日、（教諭の報告で）提案があったストーリーマップは、そういう足跡を残していくということで、あくまでも参考です。

ですから、今年も、ほとんど余白のところでスタートしていて、去年の原稿はほとんど使っていません。環境ミュージアムさんといろいろと調整をさせていただき、今年はまだ逆偵察というところを提案いただき、毎年毎年、変わっていったらいいというところなんです。

### (2) カリキュラムパッケージと ESD ストーリーマップの作り方（ファシリテーター・田宮）

**ア カリキュラムパッケージのフレームは子どもたちの状況、社会の動きを見て変えていく、記録は後に続く人の参考になる程度のもの**

（田宮）

ありがとうございます。要は先ほどの永田さんのお話ともぴったり合ってくる場所かと思います。やはりその空欄をつくっておくにしても、そこのあるところで、さらに欄が増えたり、一方、ここは必要ではないという欄をカットしたりする。やはりその時々の子どもの状況であるとか、社会の動きであるとか、そういったものによって変えていけばいいと思うんです。

それで今お話しいただいたような形で足跡を残しておく。記録を残しておくことはとても大切で、このパッケージも実は空欄なんですけど、明治学園小学校様のプレゼンテーションもそうですし、あとビデオも残しておいて、あとの人たちの参考になること。要は他のところで同じことをやって下さいというわけではなくて、参考になりますよというようなものをつくっていただければなと思っています。

### イ ESD ストーリーマップは達成目標ではなく方向目標で書いて欲しい

この ESD ストーリーマップの書き方についてはいろいろな考え方があると思いますが、学校から提案されたものは、子どもの姿ではなく、到達目標で示されています。子どもの姿でなかったにしても、達成目標ではなく、方向目標で書いて欲しいと思います。特に、ESD や総合的な学習の時間に関して特に方向目標でなければいけないのではないのでしょうか。この点についても検討していただけるとありがたいなと思います。

### (3) 持続可能な社会の創り手を育成する上で大切なこと（佐藤校長と田宮との対話）

**ア 佐藤校長—NPO 法人里山を考える会とは 20 年以上前から交流がある、子どもたちが自然に触れワクワクするような活動をさせていただいている、持続可能な社会の創り手の育成で大事なことは子どもたちにワクワク感があることで、そのことを環境ミュージアムの方から学んでいる**

もう一つ質問したいのは、佐藤さんはいつごろから、NPO 法人里山を考える会と交流があったんですか。

(佐藤)

実は、関さんとは20年以上前から、いろんな活動を提案していただいています。本当に、自然に触れるような、子どもたちがワクワクするような活動をさせていただいていました。ですから、持続可能な社会の創り手というところでほんとうに大事なのは、子どもたちのワクワク感とか、もっとやりたいと思う気持ちとか、先ほど担任からも子どもたちが「えっ、もう終わっちゃうの。もっとやりたい」というようなことを言っていたということを知りましたが、やはりそこが、一番キーになるところかと、今感じています。それを、関さんはじめ、環境ミュージアムの方から私たちは学んでいるところです。

**イ ファシリテーター・田宮 学校外の方と対話して自らの考えを変える、そのことは教師にとっても成長することになる**

(田宮)

今、学んでいるということですが、進藤さんのお話にもありましたが、対話というのもまさにそうで、学校だけにとどまらずに、地域の方、学校外の方からご意見を伺って対話をしていく。その中で考え方をえたりする。というふうになっているかと。それがまさに教師の成長なのかなと、思っております。私自身も子どもと一緒に、いろいろな方と出会うことで、自分の考えを広げたり、深めたりしているので、おとなも常に学んでいるんだろうなと、思いました。

#### **4 静岡からの参加者の発言 I (特別支援学校、幼稚園、動物園)**

それでは、ここからは実践者の立場からお話をいただきたいと思います。今日は静岡からの参加者もおります。静岡の実践者に少し話をさせていただきたいと思っています。

まず静岡県立浜松特別支援学校の元校長の山田さんから、特別支援の視点からお話ください。お願いします。

##### **(I) 特別支援学校 (山田浩昭 静岡県立浜松特別支援学校元校長)**

###### **ア ミュージアムジャックの活動に対する感想**

**(ア) この活動で「主体的に」というのは、具体的に言うと、「本気である」かつ「楽しい」ということであると、感じた**

(山田)

静岡から来ました山田です。よろしく申し上げます。今日は午前中、明治学園小学校の活躍の様子を見せていただき、本当にありがとうございました。それを見ていて思ったことですが、「主体的に」というのはここまでの発表にも出てきていますが、それをもうちょっと具体的に言うと、「本気である」ということと、それから「楽しい」ということ、その2つかと。その2つを今日、すごく感じました。その2つが

「主体的に」ということなのかと思いました。今日、見た感想です。

**(イ) それぞれが自分のやり方でやっていてテーマもそれぞれである／しかしこの活動はいずれも一番重いテーマである「環境」に向かっていて、方向目標がきちんとしている**

一方、やっている方法を見ると、それぞれが自分のやり方でやっている。仲間、グループでやっているものもありますが、個人のやり方でも発表している。それからテーマも、それぞれでやっている。でも最終的には、一番重いテーマである「環境」に収れんしていく。到達点について最初に田宮さんから説明がありましたが、一つではなくて、その方向に向かっていて目標の持ち方というか、そういう方向にきちんとなっている。ミュージアムジャックの活動についてそう知りました。

**(ウ) この活動がめざしているものは、特別支援学校の生活単元学習や遊び学習指導の中で脈々としてきたこととぴったり一致している／幼稚園にも同じ考えがあるだろう**

で、特別支援についてですが、特別支援学校には、例えば生活単元学習であるとか遊び学習の指導があります。私は特別支援学校の教員が長かったものですから、その学習指導の中で脈々と「こういうことが大事だよ」と言ってきたことが、まさにミュージアムジャックの活動とぴったりいっしょだと思ったんです。ということは、他に幼稚園なんかでも同じような考えがやっぱりあるのかなと思います。

**(エ) この活動方法は年齢、学校種、子どもたちのありようを超えて有効であると感じている／この活動を視野に入れ特別支援学校の学習指導をブラッシュアップしていくといいと思っている**

そうすると、もう少し考えてみると、年齢層がどんなに違っていても、あるいは学校種が違っていても、また子どもたちの様子が違っていても、今回やっているような指導、それから活動は、みんなに有効なのではないか、ということであらためて感じました。この活動を視野に入れ、特別支援学校でさらに生活単元学習とかもブラッシュアップしていったらいいのではないかと改めて思わせていただきました。ありがとうございました。

**イ ファシリテーター・田宮の意見**

**(ア) 小学生がリアルごっこ遊びをする、本気が出るためには借り物、嘘物ではだめで、この活動はそれができるようになっていただろう**

(田宮)

ありがとうございます。今、山田さんから「本気」というのがあったんですが、小学生だからまさにリアルごっこ遊びです。リアルな遊びが本気が出るためには、借り物ではだめというか嘘物ではだめです。ミュージアムジャックにはそういったところが多分あったんだろうなと思いました。

**(イ) 共感し学び行動変容へとつなげていく仕掛けは年齢に合っていない／どの年齢にもその仕掛けは必要でおとなも同じである／楽しくないと学べないから楽しくなる仕掛けが活動の根底にあるだろう**

また「重いテーマでありながらも」という話がありましたが、その事実にかに共感し、学び、そして行動変容へとつなげていくか。その仕掛けは年齢に合ったものでないとこのような展開は難しいです。

またどの年齢にあってもこういった対象との出会いが大切で、そこはおとなも同じかと思います。おとなも学ぶときは楽しくないと学べないですね。楽しいというところが学びの根底にあるのかなと思いました。

#### **(ウ) 特別支援学校の実践はどこをとっても ESD である／その実践を ESD の視点から価値づけていくとよい**

それから、もう一つ付け加えておきたいのは、特別支援学校の実践を見ていて、どこをとっても ESD なんだろうなとも思います。特別支援学校は、その実践をもっと価値づけてもいいのではと思っています。

#### **(2) 幼稚園（遠藤順子 富士市保育幼稚園課指導主事）**

今、遊びというのが出ました。また年齢が違っててもということですが、本日、総合司会を担当してくださいました遠藤さんは富士市の保育幼稚園課の指導主事です。幼児教育からみた幼小の接続の視点から、今回のミュージアムジャックの感想や幼児教育にあって大切にしていること等をお話ししていただければうれしいです。お願いします。

#### **ア 富士市田子浦幼稚園の活動を紹介しつつミュージアムジャックの感想を述べる**

##### **(ア) 田子浦幼稚園では年長児が遠足で日本平動物園のガイドツアーを体験し、その体験を動物図鑑として自発的に表現した**

(遠藤)

遠藤です。今日はありがとうございました。ゼロカーボンという合言葉から始まるミュージアムジャックがとても楽しいと思いました。

私の勤務している富士市に田子浦幼稚園という幼稚園があります。そこでは年長児が遠足でお隣の静岡市の日本平動物園に行き、7~8人のグループになって、ガイドツアーを体験してきます。今年度、ガイドさんから「象の糞で紙が作れるんだよ」というお話を聞いて「あっ、木を切らなくていいんだね」と発言する子もいました。園児たちは「紙のまちにある幼稚園」の園児として、熱帯の森林がなくなって困っている動物たちがたくさんいることを日ごろから学んでいます。

遠足の後、一人のお子さんがガイドさんのお話で印象に残っていたことを、自宅で生き物図鑑にして持ってきてくれました。その図鑑を見た他の子供たちが、僕も作ってみたいといって、図鑑づくりがクラス全体の活動につながっていき、図鑑を作ってきました。こちらの動物図鑑がそうです。今日は縮小版を持ってきました（図鑑を掲示）。

##### **(イ) 体験の振り返りを教師主導で行っていると思われる園も多いが、保育者は自身の感性で子どもの興味や関心を捉え、子どもの主体性を促していくことが肝要**

幼児教育では体験の振り返りを絵で表現することが一般的です。こういった体験の振り返りを教師主導で行っていると思われる園が多いのですが、このような活動の中では、子どもの興味や関心を敏感に聞き出す保育者のセンスはとても素敵で、やっぱりそういった感性が子どもの主体性を促すのだと思っています。

**(ウ) 子どもの主体性を促すものがいたるところに転がっていることに気づくおとなのセンスや遊び心が大切にされていることをこの活動で気づかされた**

ミュージアムジャックの場合だと「ゼロカーボン」という合言葉でしたが、いろいろなところに、子どもの主体性を促すものが転がっているかと思います。それに気づくおとなのセンスとか遊び心が、今、大切なんだと、今回、あらためて気づかされました。

**(エ) 動物園の遠足の後で、子どもが親を動物園に連れて行きガイドしたとのこと。それこそが生活に生きる学びである**

こんな話も聞きました。遠足の後、園児さんが親御さんを日本平動物園に連れて行ってガイドしたそうです。本当にこれが生活に生きる学びなんだと思います。

**(オ) 環境ミュージアムの横にある46億年の道を子どもが楽しみ環境ミュージアムへと誘導される／繰り返し訪問できる身近な施設の教育的価値に気づくことが大切である／子どもが再びミュージアムを訪れる時、ミュージアムの持つ意味も変わって来るのではないかと思った**

繰り返し訪問できる身近な施設の教育的価値に気づくことが大切です。環境ミュージアムの横に「46億年の道」という空間というか、施設がありました。広い芝生もあって、そこはミュージアムではないにしても、園児は幼児期に繰り返しそこに遊びに来られるかなと思ってみました。園児が小学生になって46億年の道やミュージアムを再び訪れた時、その子どもにとってミュージアムの持つ意味も変わってくるのではないかと思いました。

**イ ファシリテーター・田宮の感想・意見**

**(ア) クラス全体に広がった動物図鑑づくりはとても素敵な実践だと思う**

(田宮)

ありがとうございます。動物図鑑をカメラの方に見せてもらえますか。どんな文言が書かれているんですか。

(遠藤)

これはシロクマです。シロクマだったら「体が重い」とか。子どもがガイドさんのお話を聞いて自分に一番ピンときた言葉を書いて、絵にして、説明してくれています。ペンギンは「海で泳ぐよ」「泳いでいるよ」とか、です。

(田宮)

動物園で子どもが学んだこと、印象に残っていることですね。子どもからすると、学んできたんじゃないですよ。「おもしろかったな」とか、とにかく印象に残っていることを表現する。それを自宅で図鑑にしてもって来た。先生が「これはおもしろい。まさに、振り返り」と注目する。そして他の子たちもつくりたいとなって、それでクラス全体に広がっていったということ。とても素敵な実践だったなと思います。

**(イ) ミュージアムジャックでも子どもたちが絵本をつくっていた。体験したことを様々な形で表現し**

## 繰り返し学ぶことが重要だと思う

環境ミュージアムでも、昨年度、ミュージアムジャックをやった子どもたち、今、5年生になっている子たちが、絵本をつくっていましたよね。このように自分が体験したことをさまざまな形で表現し繰り返し学ぶことはとても重要なんだろうと思います。

### (ウ) 46億年の道は地球誕生から生命の歴史を体験し学ぶことのできる施設、そこを訪れた幼児は環境ミュージアムに親しみを持ち、やがてミュージアムを繰り返し活用するようになる

で、今の話にあった「46億年の道」ですが、環境ミュージアムの横にあります。生命の歴史を地球誕生から、460mを歩くことで無料で体験できる施設となっています。体感しながら学ぶこともできます。幼児にとっては、環境ミュージアムの説明は少し難しいと思われます。前段階として、近くのところで遊ぶ。そしてここにミュージアムがあることと知る。知るだけではなくてそこに親しみが持てるようになっていく。そういう場所になっていくことをもっともっと考えていけるといいなと思いました。その後、小学生になって、今度はジャックに来る、というふうに、繰り返し、環境ミュージアムを活用していくというのは、とてもいいアイデアだなと思いました。

### (3) 動物園 (柿島安博 静岡市立日本平動物園元園長)

ア ファシリテーター・田宮—日本平動物園では近隣の小学校の総合的な学習の時間に子どもたちにガイディングをしているが、子ども主体の学びを促すために社会教育施設が意識した方がよいこと、今日のミュージアムジャックの感想を述べてください

日本平動物園との関わりの中での園児の学びを、遠藤さんがお話しして下さいました。で、本日は日本平動物園の元園長の柿島さんにもいらっしやっただいております。日本平動物園も総合的な学習の時間に近隣の小学校の子どもさんたちがガイディングをされたりしていますよね。

そこで、子ども主体の学びを促すために社会教育施設が意識した方がよいようなことがあったら教えていただきたいと思います。午前中のジャックの感想なども述べていただきながらお願いできるとありがたいです。

#### イ 柿島元園長の回答

(ア) ミュージアムジャックの感想—子どもたちがタブレットを駆使したりアニメを描いたりして取り組んでいる姿を見て、私たちが受けてきた教育とはずいぶん様変わりしていると思った、子どもたちは楽しんで学んでいると思った

(柿島)

柿島です。本日はありがとうございます。私は教育の専門家ではないので、あまり難しい話はできませんが、気づいたことなどをお話ししたいと思います。

今日のミュージアムジャックを拝見して、私たちが受けてきた教育とはかなり様変わりしているなと思いました。子どもたちがタブレットを使いこなして作成したプレゼンしたり、遊びを取り入れてガイドをしたり、あるいはアニメーションを上映したり、そういうところから、教育も随分変わってきたなということ



がわかりました。ドームでのアニメーションも拝見させていただいたのですが、子どもたちが得意なアニメを描いて、例えば宇宙人の目から地球を見るとか、おもしろい漫才のような会話を取り込むとか。すごくユーモアセンスもあって、とても楽しんで作っているなと思いました。

**(イ) 社会教育施設として意識すること—子どもは自らの課題に対し自ら考えて行動を起こすことが求められている／学校教育に携わる地域のおとなは教えるだけでなく子どもの実態に応じて導く役割に徹することが大事で、そのために先生方と方法や課題を共有する必要がある／社会教育施設のスタッフは学校教育が変わってきていることを勉強していく必要がある**

与えられたことを単純にアウトプットすることが重要ではなくて、子ども自身が自らの課題に対して、楽しく調べて、考えて、行動を起こすことが求められているのかなと思いました。そして学校教育に関わる地域のおとなは、教えるだけではなくて、子どもの実態に応じて導くような役割に徹することが大事で、そのためには何をめざして、どのような方法で授業を展開していくかを、先生方と共有することが重要だなと感じました。また社会教育施設のスタッフ、地域のボランティアは、学校教育が変わってきていることを勉強していく必要があると思いました。以上です。

#### **ウ ファシリテーターの田宮と柿島の対話（昔の教育と今の教育の比較及び課題）**

**(ア) 田宮—柿島さんが学校教育で受けてきたものにこういう形のものがあったか？／柿島—おとなに対し子どもたちがプレゼンしたりガイドしたりすることはあまりなかった**

(田宮)

ありがとうございます。どうですか、柿島さんが、子供のころ、こういうふうな形のものって、ありましたか？

(柿島)

他のおとなに対して子どもたちがプレゼンしたりガイドしたりするというのはあまりなかったように思います。昔はせいぜい授業参観で自分の親兄弟とか、お爺ちゃんお婆ちゃんが見ている中で発表する。昔はその程度だったんじゃないかと思います。

**(イ) 田宮—今は興味や関心があるところから好きなやり方で取り組んでいる、その姿がミュージアムジャックのなかで確認できた**

(田宮)

今、アニメーションの話が出ましたが、アニメーションを描くのが好きな子、絵を描くのが得意な子は、そこから迫っていくというように、それこそ興味や関心があるところから取り組むことができたかなと思いました。まさにそれぞれの方法というかやり方で、好きなやり方で、取り組んでいった姿が見られました。

**(ウ) 田宮—学校教育が変わってきていることを知らない人がまだ多いから、もっと発信してゆきたい／また学校と施設が対話していくことが重要である**

ただ一方では、このような実践を小学校が行っていることを知らない人がまだまだいっぱいいる。一般の人とか社会教育施設の人だけではなく、幼児教育の関係者ですら知らない。学校教育が変わっている、変わろうとしているのを知らない。だからこそ知ってほしい。今回、ビデオを見ていただきましたが、ビデオでもいいので、今、学校が変わっている、変わろうとしているということを、もっともっと発信していきたいと思いますし、あとこういった対話を、施設と学校との対話が重要なのかなと思いました。

## 5 ゲストとフロアの対話

それでは、フロアの方から質問、意見、コメント等がありましたら、ご発言願います。挙手をいただけるとありがたいです。(挙手なし)

では、どうでしょうか。ゲストの方々、今の見解をお聞きになって、どう思われたか、永田さん、お願いできますか。

### (1) ゲストの永田とフロアの柿島との対話

**ア 永田—柿島さんは動物園一筋か？ 柿島—否、最後の15年だけ動物園に勤務した**

(永田)

柿島さんは、もうずっと動物園一筋でいらっしゃったんですか。

(柿島)

違います。

(永田)

私、すごい興味があったものですから。

(柿島)

現役で15年ぐらいです。かなり年をとってからです。私は獣医師ですが、以前は食品衛生とか他の行政の分野にいましたので、動物園は最後の15年だけです。

**イ 永田—なぜそう質問したかという、いろんな世界を知った上で学校の先生になる、あるいは学校の先生をずっとしていても他の世界とのつながりをもたないといけない、学校と社会がつながっていないといけないと思うから**

(永田)

なぜそういうことを聞いたかという、今、学校の先生が足りない、うちの学生にも早く学校の先生になってほしいんですが、でもあまり早く学校の先生になって学校しか知らないような先生では、あとがしんどくなってくるのもよく見ているからです。やっぱり、いろんな世界を知った上で学校の先生になるとか、学校の先生をずっとしていても他の世界とのつながりをもたないといけないと思うからです。

日本の中では最近そういう動きが、学校が他の世界とつながる動きが活発化していますが、ただこれって、日本の中でも何回目かのことですし、例えば、世界でいったら今から120年以上前にジョン・デューイという人が、学校と社会とって、学校がこうなっているからいけないと、学校と社会がつながっていかないといけないと、学校はあくまでも社会の中の一部であってビニールハウスの中で促成栽培をして子どもたちを育てていくようなところでは本来ないと、ということは、ずっと言われてきています。

**ウ 永田—しかるに今はそうではなく、おとなたちが子どもたちを学校の枠内に閉じ込めてしまうところがあるから、その枠からどれだけはみ出せるか、飛び出せるかが、大事になる**

でも、そこが繰り返し繰り返し、効率化するとか、力をつけるとかといって、今、求められている。ある意味、おとなたちが、子どもたちを枠内に勝手に閉じ込めてしまうところがある。それでそのところを、今日、田宮さんもみなさんも言ってくださっているように、学校は大事なんです、学校からどれだけはみ出せるか、飛び出せるかが大事、ということなんです。

## (2) ゲストの永田とフロアーの佐藤校長との対話

それから明治学園小学校の先生方に、校長先生も含めて、もう一つ聞きたかったのは…

(田宮)

はい、聞いてください。

**ア 永田—佐藤さんは関さんとは20年来のお付き合いがあるとのことであるが、学校ともつながっていたのか？／佐藤—つながっていた、学校は色々な活動の場を地域の方から提供していただいていた**

(永田)

佐藤校長先生は関さんとは20年のお付き合いがあるとのことですが、今のジャックのように本格化したのは最近のこと…。でもその20年の中では、学校ともお付き合いがあったんですか。

(佐藤)

ありました。里山では竹を実際に切らせていただきました。竹がばーっと倒れるところは子どもたちにとって迫力があります。そういう自然のすごさも、実際に体験させていただいています。そしてその竹から今度は楽器を作ってコンサートを行います。やっぱり、そうした場づくりというところでは、学校だけでは本当に限られていますので、そういったところを地域の方のお力で助けていただき、いろいろな場を提供して頂いています。そうすると子どもたちも今度はそこを目標にして、また意欲が高まっていきます。ですから本当にありがたいお付き合いをさせていただいています。

**イ 永田—明治学園の創設者は北九州市をつくった人、子どもたちには学校外で行う勉強の大切さが伝わっていたらう**

(永田)

ジャックはこの何年かで行っていることですが、ずっとつながりを持ってやってきたと。そこが明治学園小のすごくいいところですね。

あと、子どもたちが今日、言っていたことですが、この北九州市をつくった人の中に、明治学園小の創設者の何という人だったかがおられたと。子どもたちが自慢げに言っていたのですが、その人の名前がぱっと出てこないのですが。

(佐藤)

安川敬一郎です。

(永田)

ええ、その方が、学校もそうですけれど、この町も…ということなんですね。そのところを子どもたちがすごく分かってくれているというか。私たちがなんでこういうことをしているかといったら、学校でしっかり勉強することも大事だけれど、私たちの学校をつくった人がそういう人だし、校長先生でさえそういう人だし。というのは、やっぱり、子どもたちにもなんか伝わってくるのかなと思いました。

### (3) ゲストの永田とファシリテーターの田宮との対話

**ア 田宮—柿島さんが体験したことは経験値となってしみだしてくる、学校の先生は先生としての奥義を深めなければならないが、狭い意味での専門家になってしまうと社会に対応できなくなってしまう、これからの教師はそれを避けなくてはならない**

(田宮)

やはり、すごいなと思ったのは、今、永田さんが柿島さんに注目して、その背景をお聞きになったことです。なぜ、こういうお話しをするのか。そこには背景があって、その人がどういうふうな体験を経験に変えてきているか。そのちょっとした話からしみ出てくるものがあるんですね。要はそのところです。なにしろ柿島さんは、動物園で園長さんもやっているけれど、動物園を飛び出す方なので…

(永田)

多分、そうじゃないかと思ひまして。

(田宮)

それで今までずっと柿島さんといろいろな事をやってきました。デジタル絵本をつくったり、そういうことを一緒にやらせていただいております。要はある場所ににとまるだけでなく、違うところで、ずらしで専門性を生かしてみる。そこだけにずっといると、確かに専門家にはなりますが、すごく狭い意味での専門家になってしまう。でもこれからは、学校は、学校の先生としては、それを避けなければいけないんです。確かに学校の先生として奥義を深めていかなければいけないんですが、そのところだけにいってしまうと、もう社会に対応できなくなってしまう。

**イ 永田—大学の教員も同じで専門の中だけでつながるのではなく、いろんな人とつながっていなければこれからは駄目と言われる、それゆえ田宮さんともこの世界でつながっている**

(永田)

そうです。子どもたちもそうですが、大学も結構そうです。田宮さんも私もそうですけど、専門性は専

門性で研究はしていますが、専門の中だけではこれからは駄目だと学問の中でも言われています。田宮さんと私がこうやってこの世界でつながっているのはまさにそれ故ですし、ほんとに今日もいろんな方とつながっています。

**ウ 永田—「そんな遊び事でこの町がよくなるものか」と大牟田でおとなから言われて泣いた子に、おとなはどう対処したらよいか、対処法を松岡さん（タカミヤ環境ミュージアム館長）から聞きたい**

今日、松岡さんが最後に言って下さると思いますが、松岡さんの語りを見ても、あの厳しい生きざまをされてこられた方の、子どもたちへのあの眼差しの温かさといったらほかにはない。

私、大牟田の話を以前ちょっとしましたが、大牟田も厳しいところで、あそこも全市ユネスコスクールでやっていますが、ただその中で、子どもたちが一生懸命、大牟田をよくしたいと言って活動していたら、ある年配の方が「この町がそんな遊びごとでよくなるものか」と子どもに言ったらしいです。その子は泣いて学校に帰ってきました。でも、じゃあ、そういう人に、私たちおとなが、一緒に頑張っていきましょうと言えるのか。伝えてあげられるのか。おとなじゃなくて、それを子どもが言えるのかというのが…。

この点に関しては、まさに後で出てくる松岡さんから、最後の言葉で聞きたいです。それは後にとっておいた方がいいですね。

（田宮）

そうですね。松岡さん、プレッシャーです。

#### **(4) ゲストの宮川とフロアーの明治学園小学校・渡辺教諭との対話**

はい、どうぞ、お願いします。

**ア 宮川—この取組みで苦労だったことはどこか、また実施した学年はなぜ4年生だったのか**

（宮川）

明治学園小学校の先生方にお聞きしたいんですが、先生の学校では4年生によってこういった取組みが円滑にできたと。やはりこれを一般化する必要があるような気がします。取組みには御苦労があったかと思いますが、ほかの学校が取り組むときのために、先生方が取組みやすいような方法を…そして、そもそもなんで4年生だったかというその理由を…そのあたり素朴な疑問ですが、教えて頂ければありがたいです。

（田宮）

それでは、渡辺先生、コンパクトに2点、お願いできるとありがたいです。

**イ 渡辺教諭—4年生は環境というテーマを身近に感じやすい学年だったから**

（渡辺 明治学園小学校教諭）

まず、なぜ、4年生だったかということですね。学校として総合的な学習の時間で課題設定していることはもちろん理由としてありますが、一番は、4年生が環境というテーマが身近に感じられる学年だったか

らです。

北九州市は環境に対する意識がとても高いところです。子どもたちは、社会科見学の中でも、環境への取り組みについてのお話をミュージアムの職員の方から繰り返し聞く機会がありました。そこでは、私たちが普段やっていること、水でもゴミのことでもなんでも、気付いたら、環境に関わることをやってもらっているんだという意識が自然と芽生えやすいというか、とくにさっきの身近さという点では、4年生はそれを身近に感じやすい学年だったから、今回はそこから、彼らに環境ミュージアムジャックをさせていただきました。それから、あとは苦勞ですね。

#### ウ 渡辺教諭—実施する上で子どもたちに問題はなかった、問題は教員の側にあった、その問題への対応が教員の側で今後の課題になる

(渡辺)

やっぱり一筋縄ではいかなかった部分もありました。ただ、そのとき、問題は、やっぱり私たち教員側の問題が主で、子どもたちに関しては、ほとんど苦勞なく行えました。子どもたちは「やるよ」と声を掛けると、楽しんでずっとやっています。声をかけなければ何時間でもやるような状況でしたので、問題はやっぱり教員側の問題としてありました。そういったところが今後の課題になるかと思います。子どもたちに関しては、機会を提供するだけでもう自然に楽しんでやってくれたので、困難さは感じませんでした。

#### エ ファシリテーター・田宮—仕組みがある程度できていて最初の単元の構成がよかったから円滑にできたのではないか

(田宮)

今のお話を聞いて、結局は仕組みがある程度できていたから、最初の単元の構成が良かったから円滑にできたと思います。

### 6 静岡からの参加者の発言2 (小学校) (富士市立富士第一小学校元校長)

進藤さん、ごめんなさい。時間がなくて。

最後にあともう一人、実践の立場から、お聞きしたい方がいます。富士市立富士第一小学校の元校長の和田さんが今日いらっしゃっていますので、ミュージアムジャックへのコメント、そして他地域での可能性などについてお話いただければと思います。残り時間が7分しかないので、7分でコンパクトにまとめて下さい。

#### (I) ミュージアムジャックの効果と先生方の努力

ア ミュージアムジャックは本物の社会の中で本物の他人と関わって行う活動、総合で求めたい力をしっかりつける、そこでつけられた力はおとなになって生きて働く力になっていく

(和田)

よろしく申し上げます。まずミュージアムジャックの感想ですが、もう楽しかったですね。子どもたち

の姿。自分が説明し終わってお客さんがいなくなった後、その男の子が膝に手をつけて「はあー」とため息をついたんです。その姿が。きっと緊張もあつただろうし、やった満足感もあつただろうし、終わったことへの安ど感もあつただろうと思います。

この活動の中では、学んだことを表現する立場の子どもたちがちょっと目立っていましたが、館内を消毒してまわる子、図書コーナーの本を整頓して歩く子、そういう役割も子どもたちにはありました。

こういうところで、いろんなことを学んでいます。どうしてそれができたかという、やっぱりここでやっているからです。学校で学んだことを発表会で発表するのではなく、社会に出て、本物の社会と関わって、全く知らないおじさんやおばさんたちに発表する。環境の勉強は環境の勉強として認識が深まっていくことはもちろん確かですが、それを抜きにしても、この経験によって、「総合」で求めたい力をしっかりつけている。本物の社会の中で本物の他人との関りをもってやっているからこそ、生まれる活動だなと思いました。そこでつけられた力はこれからおとなになっても生きて働く力になっていくと思います。

## イ この活動はいろんなことに興味をもって考え続けて行動する素地を養う

一つのことを一生懸命、追求する、探究することによって、これからもいろんなことに興味をもっていく。環境だけではなく、例えば動物園に行ったらこの動物はどうなんだろうかと興味を持つ。いろんなことに興味をもって考え続けて行動する。その素地をこの活動は養っている。外に出てこういう活動を仕組んだからこそ、それができていると思いました。

## ウ この活動には遊び心やチャレンジ精神が必要である／「それはいいね、やってみようよ」と先生が言い添えてくれる学校の努力があつてこの活動は実践できる

一方、こういう学びをするには先生方の努力もあつたかと思います。先ほどこんなふうにしたらどうかという発想や、遊び心が必要という話が出ていましたが、それには、やはりチャレンジ精神が必要です。さらにはそれを校長先生が「それはいいね」「やってみようよ」と言って支えてくれること。それがすごく大きなことだと思います。今、校長先生のお話をお伺いしたところ、校長先生自身がその素地を何十年かけてつくられてきている。校長先生が「それはいいね」と言ってくれる人物であつたからこそ、こんなすばらしい実践ができたのだと思いました。

## (2) それぞれの地域で行うミュージアムジャックの実現の可能性

### ア 地域の素材を生かせる可能性を感じる／展示物がなくてもそこを利用する人や運営する人に深く関わることで類似の目的は達成可能になると思う

それから他の地域では、ということですが、私の住んでいる静岡県富士市には環境ミュージアムはありません。こんな素晴らしい環境があるところはないと思いますが、私の地域は、小さな博物館があつたり、図書館があつたり、ローカル路線があつたり、それから小学校区にまちづくりセンターという地域の人たちが集まるようなところがあつたり…というようなところですが、このミュージアムに、地域の素材を生かせる可能性を今日はすごく感じました。このような展示とかがない場所でも、例えばそこを利用している人であるとか、そこを運営している人とかに深く関わることで、似たような活動というか、目的を達するようなことができるのではないかと、そんな可能性を感じさせていただきありがとうございました。

イ その土地その土地の持つ材をどのように子どもにファシリテートしていくかが問われる／子どもは学ばせてもらう施設で学ばせる立場に換わる、発想を豊かにし計画を立てていくと豊かに学べるたくさん課題が生まれ、探究が続くようになる／ミュージアムジャックにはそんな活動ができる可能性がある

先ほども話がありましたが、その土地その土地によっていろんなものがありますが、その材をどういうふう子どもにファシリテートするか。それによって、豊かに学べるたくさん課題が生まれ、自分たちでやりたくなる。そんな活動が生まれるなと思いました。

ミュージアムは私のイメージからするとだいたい学ばせてもらうところですが、学ばせてもらうところに行くと今度は大げさに言えば学ばせる立場になる、逆の立場になる。そういうように発想を豊かにして計画を立てていくことで、豊かに学ぶいろいろな課題が生まれたり探究が続くようになる。そんな活動ができる可能性がみられて、非常に参考になりありがたかったです。

### (3) コメントに対するファシリテーターの思い

・ミュージアムジャックが自分の生き方まで考えられるようになる総合的な学習の形になっていくといいと思う、それがESDにつながっていく

(田宮)

ありがとうございました。地域、地域によって違うと思いますが、地域のよさを生かした形で、また子どもたちが立場を変えて、学ばせてもらうんじゃなくて、学ばせてあげるとか、伝えるとか、そういったことも含めて行う。今いろいろな地域で町自慢といった活動が行われていますが、観光ガイド的な感じになっているのを散見します。そうではなくて、自分の生き方をどう変えていくか、どういうふう生きていくか、というところまで考えられるような、総合的な学習の形になっていくといいなと思います。それがまさに、ESDにつながっていくのではないかと思います。

## 7 終了

### (1) ファシリテーターの終了の言

本当にごめんなさい。進藤さんにも話をしてもらいたかったのですが、かないませんでした。

このような会って、1時間ぐらいすると話が盛り上がってきて、そこでぱたんと終わってしまいます。でも最初からオープンエンドのつもりだったので、まだまだ話し足りない気もしますが……。ここからは参加者がラウンドテーブルをきっかけに、考え続けていただけると嬉しいです。ここで終了したいと思います。

みなさんの御協力で、コンパクトなラウンドテーブルが可能となりました。みなさんのお話を受けて、カリキュラムパッケージをもう一度、見直していきたいと考えております。ありがとうございました。

それでは、総合司会の遠藤さんにマイクを戻します。





ESDフォーラム ミュージアムジャック

# 閉会挨拶

タカミヤ環境ミュージアム 館長

松岡 俊和

(司会・遠藤)

ゲストのみなさま、ありがとうございました。(拍手)

それではお席にお戻りいただいてもよろしいでしょうか。(ゲスト退席)

## (2) 閉会の挨拶(環境ミュージアム館長、松岡俊和)

最後に、タカミヤ環境ミュージアム館長、松岡俊和様より閉会のご挨拶をいただきます。お願いいたします。

(松岡館長)

最後にハードルを非常に上げられましたが、閉会の挨拶をさせていただきます。

今回、フォーラムにご登壇いただいたみなさん、それからご参加したみなさん、オンラインで参加していたみなさん、ほんとうにありがとうございます。そして何よりも感謝しなければいけないのは、明治学園小学校の4年生のみんなです。ここにはいませんが、本当にありがとうございました。今年もみんなと一緒に、僕等ミュージアムのスタッフは遊ばせてもらいました。そしてその遊びの中からたくさんのことを学ばせてもらいました。

僕らは公害からどんな問題が起こったかを説明します。しかし彼らは「公害って何だ」「煤塵って何だ」というところから入ってきたんです。地球環境問題だったら「地球ってどれくらい人間を抱えられるのか」—そのキャパシティーを、彼らは語ったんです。エネルギーだと、電気がどんなふうにして発生するのか、エレクトロンって、素晴らしい発音をして、そこから入っていったんです。もう目からうろこです。彼らにたくさん学ばせてもらいました。

僕らも彼らに負けないように、いろんなことを、みんなと一緒に作り上げていきます。今後も小学生のみんなと一緒に、この環境ミュージアムを、楽しく、そしておもしろく、そしてたくさん学べる施設にもっていきたいと思います。小学生のみなさん、またここにいらっしゃるご参加のみなさんにご支援をお願いし、閉会の挨拶とさせていただきます。本当にどうもありがとうございました。

## (3) 総合司会の閉会の挨拶と連絡

(司会・遠藤)

松岡様、ありがとうございました。これですべてのプログラムが終了いたしました。カリキュラムパッケージを中心に、社会教育、学校教育、それぞれの関係者がともに授業を構想していくことで、質の高いESDが実践されることと思います。長時間にわたりありがとうございました。

2月末、ネットワークラボに報告書がアップロードされます。ご覧いただくと幸いです。

来年度以降、ミュージアムジャックを行ってみたい方は、問合せ先にある田宮さんまで、メールアドレスにてご連絡ください。

以上で、ESDフォーラム ミュージアムジャックを終了いたします。

みなさま、ご参加、大変ありがとうございました。

(62分)



国立大学法人

静岡大学

